

上折壁城遺跡発掘調査報告書

— 住宅新築工事に伴う発掘調査 —

令和2年3月

一関市教育委員会

序

一関市室根町矢越地区は、縄文時代から人々の生活の痕跡が確認できる場所です。なかでも中世の城館跡が多いことが特徴で、それらの一つに上折壁城遺跡があります。周辺の城館跡と比較して規模が大きく、その構造がよくうかがえることから、昭和 55 年、当時の室根村教育委員会により史跡に指定されています。

この度、上折壁城遺跡に隣接した場所で新たに住宅建築が計画されました。試掘調査を実施したところ遺構を確認したため、計画変更協議を行いました。住宅建築の計画変更が難しいことから、記録保存のための発掘調査を実施しました。この調査成果をまとめたのが本報告書です。

本書により、これらの調査成果を広く公開し、市民並びに全国の方々にも当市の文化財を知って頂き、関心が高まることを期待しています。また、地域のルーツを紐解いていくことが、より良い地域づくりの一助になれば望外の喜びです。

最後に、調査に際しては地権者、地域住民の皆さまをはじめ多くの方々のご協力を頂きました。衷心より感謝を申し上げます。

令和 2 年 3 月

一関市教育委員会

教育長 小 菅 正 晴

例 言

- 1 本書は、岩手県一関市教育委員会が令和元年度に実施した上折壁城遺跡発掘調査に係る調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業及び県補助事業を活用した。
- 3 調査は、個人住宅新築工事に伴い、掘削をうける範囲の記録保存のために実施したものである。
- 4 調査対象は、上折壁城遺跡（一関市室根町矢越字千刈田51）である。
- 5 調査主体は、一関市教育委員会 教育長 小菅正晴であり、現地調査は文化財課が担当した。
- 6 調査体制は以下のとおり。

教育委員会	文化財課	課長	千葉 浩
		文化財係長	坂本 光司
		主任学芸員	菅原 孝明
		文化財調査研究員	光井 文行
			山川 純一

- 7 本書の作成は文化財課が行い、担当箇所文末に執筆者名を付した。編集は山川が行った。
- 8 本書の図1の元データは、川嶋印刷株式会社の承認を得て使用したものである。
- 9 本書の図3に使用した地形図は、一関市長の承認を得て、測量成果を使用したものである（許可番号 令和2年2月28日総第11023号）。
- 10 土層断面図の土色表示は新版標準土色帖2002年版（日本色研事業株式会社）を用いている。
- 11 調査に係る無人航空機（UAV、通称ドローン）による遺構の空中写真撮影は川嶋印刷株式会社に、自然科学分析に係る業務は株式会社加速器分析研究所に、調査補助業務の一部は本寺地区地域づくり推進協議会に、それぞれ委託した。
- 12 出土した陶磁器の鑑定については、村田淳氏（公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）の、石製品・礫の石材鑑定については、佐々木繁喜氏（一関市文化財調査委員）の指導を頂いた。
- 13 調査協力者・機関（敬称略・50音順）
阿部勝則、及川幸子、小山雅英、小山美加子、熊谷よしみ、小岩寿男、冨章宏、冨文雄、坂本一夫、佐々木繁喜、佐藤健爾、佐藤忠勝、佐藤光雄、菅原幸道、鈴木昭博、鈴木昭一郎、溜浩二郎、千葉栄一、二階堂孝子、西澤正晴、羽柴直人、畠山浩美、三浦茂雄、村上光一、村田淳、吉田功、吉田祐希、渡邊精一、渡辺武男、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、東北ミサワホーム株式会社岩手支店

目 次

序	1
例言	3
目次	4
1 遺跡の位置と地理・歴史的環境	5
2 調査に至る経緯	11
3 調査結果	12
4 上折壁城遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	34
5 上折壁城遺跡から出土した木材の樹種	37
6 まとめ	39
出土遺物観察表	40
写真図版	44

1 遺跡の位置と地理・歴史的環境

一関市は、岩手県の南端に位置する。平成17年(2005)9月20日に一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の7市町村が合併、さらに平成23年(2011)9月26日に藤沢町と合併した。東西に約63km、南北に約46kmの広がりを見せる市の総面積は1,256.42km²である。

中央部を北上川が南流する市域は、西側に奥羽山脈、東側に北上山地がある。著名な記念物は、コニーデ型二重火山である栗駒山(須川岳)を中心とする火山性山岳風景地の「栗駒国定公園」(昭和43年(1968)国指定)や北上川水系磐井川流域の史跡「骨寺村荘園遺跡」(平成17年国指定)および重要文化的景観「一関本寺の農村景観」(平成18年(2006)国選定)、下流部には変化に富んだ溪谷景観をなす名勝及び天然記念物「巖美溪」(昭和2年(1927)国指定)がある。東側には同じ北上川水系の砂鉄川流域に、名勝「狛鼻溪」(大正14年(1925)国指定)がある。

(一関市教育委員会2015『骨寺村荘園遺跡確認調査報告書』「1.位置と環境」より)

(1) 地理的環境

上折壁城遺跡がある一関市室根町(旧室根村、室根地域)は、岩手県の南東端に位置し、東および南は宮城県気仙沼市、西は一関市藤沢町(藤沢地域)及び千厩町(千厩地域)、北は陸前高田市、一関市大東町(大東地域)と接する(図1)。北には室根山(標高895m)がそびえ、その東側に君が鼻山、その南側に黒森山、愛宕山、笹森山、太田山、大森山などの山々が南北に連なり、宮城県との境をなしている。西には、大登山、観音山、黄金山など標高500m未満の山々がある。

西部の山地は主に古生代の泥岩、石灰岩、礫岩など、東部の山地は主に中世代の安山岩および花崗岩類などで構成されている。室根山は主に泥岩、花崗閃緑岩など、太田山、大森山は砂岩、泥岩など、丘陵地を取り巻く山地及び矢越山は花崗岩、花崗閃緑岩などからなり、また、丘陵地も花崗岩類を基盤としている。これらの花崗岩類は、中生代白亜紀に貫入してきたものである。丘陵は花崗岩類を基盤とするために、全般に風化作用により平坦化され、至る所で緩斜面が発達している。それらは、一般に花崗岩地域で特徴的にみられるマサ化によるものと推定されている。

主な河川は太田山北方に源を發し、矢越、折壁を流れる大川と室根山から流れる田茂木川、榎木川とが合流して気仙沼湾に、また、有切峠から南に流れる津谷川は気仙沼市(旧本吉町)小泉海岸にそそぐ。河岸段丘は広い分布を示さず、狭く、局地的に分布している。これらの段丘堆積物は、いずれも現河床とほとんど同じで、現河床との比高もそれほど大きくない。岩石段丘は大川沿いにみられる。山麓斜面が浸食により段丘化し、基盤の花崗岩に垂角礫あるいは垂円礫が薄くのり、ところによっては堆積物を欠いている。津谷川、大川にも小規模な谷底平野があるが、いずれも平坦な所は少ない。谷底を堆積するというよりむしろ浸食により形成されたもので、谷底の横断形はなめらかな曲線を描いており、堆積物は比較的少ないようである。

(2) 歴史的環境(図2、表1)

『岩手県遺跡情報検索システム(平成30年度データ)』CD-ROM版に記載されている室根地域の遺跡数は、36箇所である。種別の内訳は、城館22、散布地11、一里塚2、経塚1となっている。隣接する千厩地域に比較して遺跡の分布の密度は薄い。環境、立地が類似していることから、遺跡数は今後増加するものと考えられる。

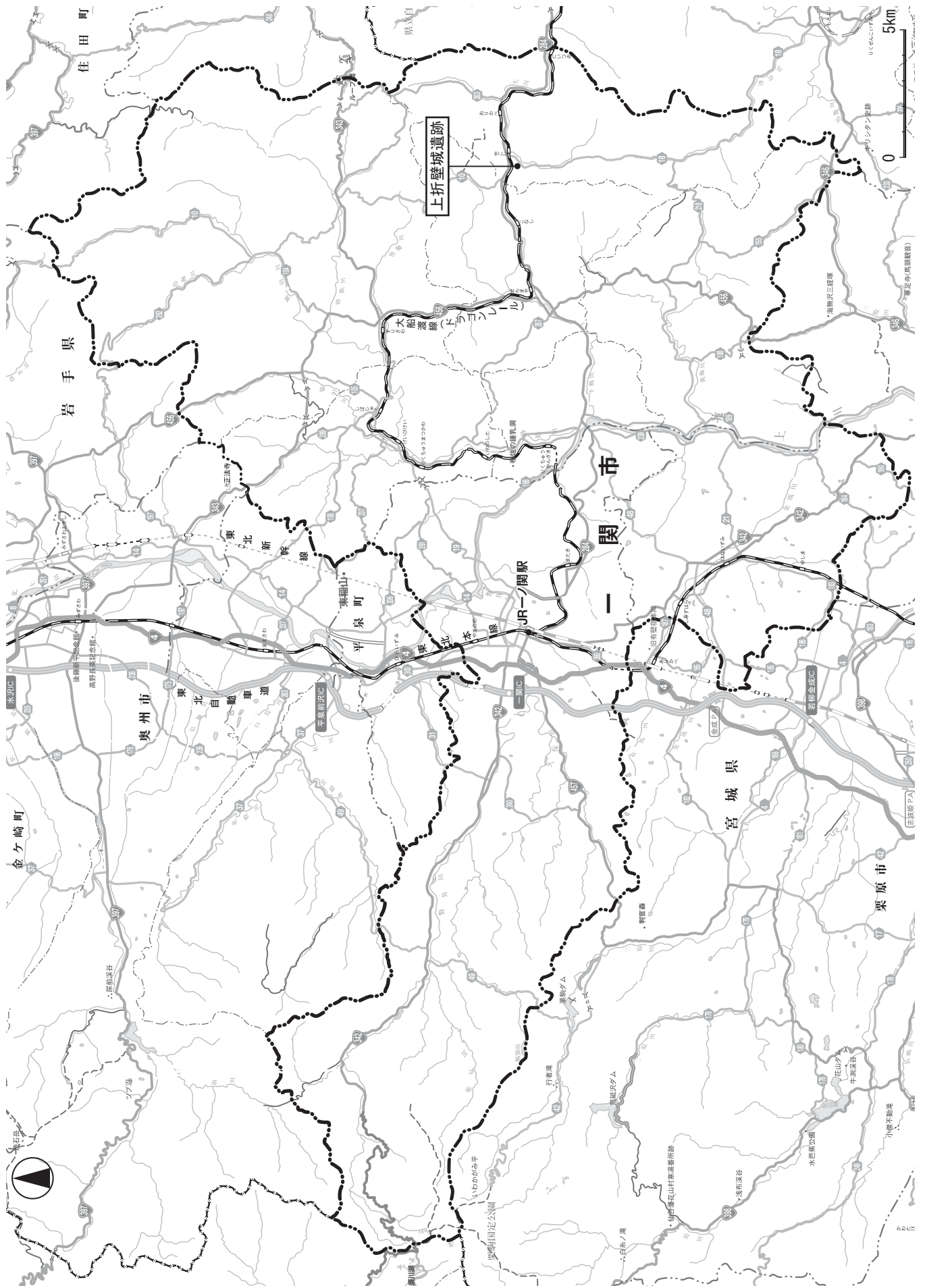


図1 上折壁城遺跡位置図

縄文時代の遺跡からは、早期～晩期の遺物が出土している。旧折壁中学校遺跡は、早期中葉の、また、大川南岸の丘陵上にある方両遺跡は晩期の遺跡である。津谷川地区には晩期中葉を中心として後期末から晩期にかけての浮野遺跡がある。矢越山、新館山から北に張り出す丘陵上にある八幡沖遺跡からは、近年の発掘調査で陥し穴状遺構が35基確認され、縄文人の狩猟場の存在が明らかになっている。

弥生時代の遺跡は見つかっていないが、隣接する千厩地域の畑ノ沢遺跡（図2-23）から弥生土器が出土している。古代の遺跡も不詳であるが、養老2年（718）、蝦夷平定祈願のため大野東人が紀伊国牟婁郡の熊野神を勧請したと伝えられている室根神社がある。また、南流神社には、平安末期頃の作とされる木造聖観音立像（岩手県指定有形文化財）が所蔵されており、当該期の集落遺跡の存在も考えられる。

鎌倉時代以降、現在の岩手県南及び宮城県の一部を支配していた葛西氏も、15世紀になると、一統支配が揺らぎだす。中小の家臣の間で緊張関係が高まり、特に天文11年（1542）から始まった「伊達氏天文の乱」以降は激しさを増し、大争乱の様相を呈してくる。磐井郡内でも、この影響で大小様々な城館が構築、改築されている。室根地域の城館は、『岩手県中世城館跡分布調査報告書』（岩手県教委1986）によると、大川流域で18箇所、津谷川流域で3箇所確認できる。規模は、長径が200m以上のものは5箇所、残り16箇所は長径100m以下であり大小の差が大きい。大規模な城館の形態は、連郭式が金鶏城（一関市指定史跡）、柴又城、輪郭式が浜横沢城、上折壁城（一関市指定史跡）である。これら大小の城館は、必ずしも同時期に存続していたとは言えないが、周辺に遺跡の発掘調査結果から、15～16世紀代に主体を占めるものと考えられている。なお、これら葛西領の諸城館は、天正18年（1590）の奥州仕置の破却令により終焉を迎えている。

江戸時代になると、支配機構は整備され、物資の流通とともに人馬の往来が盛んになった。気仙沼街道は金沢宿（現一関市花泉町）から気仙沼宿を結ぶ道である。千厩から折壁の街道筋は、現在国道284号の北側を通る。七日市一里塚（一関市指定史跡、図2-9）から、宿であった上折壁、下折壁を通り中西一里塚（一関市指定史跡）と進むものであった。元禄年間（1688～1703）の中頃、下折壁村は仙台藩家臣真山氏の所領となり、三陸沿岸の海産物、内陸の穀類等の流通の中継地として栄えた。安永4年（1775）の「風土記御用書出」によって、室根地域の旧村毎の人口をみると、浜横沢村832人、下折壁村1,337人、上折壁村723人、釘子村921人、津谷川村975人、合計4,788人である。

この地域の主要な産業として、鉱山開発（金堀）が津谷川村を中心に盛んに行われていた。寛文7年（1667）の御本判帳によれば、御本判（金採掘許可証）数が66枚とあり、磐井郡東山では最も多い。他の資料からも、「…延宝以前ハ昔ヨリ砂金ヲ以テ営業トセリ、上折壁御本判持合セテ十六アリ」（加藤家文書）のように、平原御金山をはじめ9つの金山名が確認できる。

享保年間（1716～1736）以降、金の産出が減少してくると、砂鉄製錬の炯屋経営が行われるようになる。初めは、上折壁村、下折壁村、浜横沢村で砂鉄を採掘し、大籠村（現一関市藤沢町）に集めて鉄をつくっていたが、やがて津谷川村でも鉄をつくるようになった。

こうしたことは、現地の採掘跡からも確認できる。上折壁城遺跡跡の南西約2.3kmには、大金山金山跡（図2-18）が所在するほか、室根地域にも砂鉄採掘跡が各所に遺存している。

(3) 上折壁城について

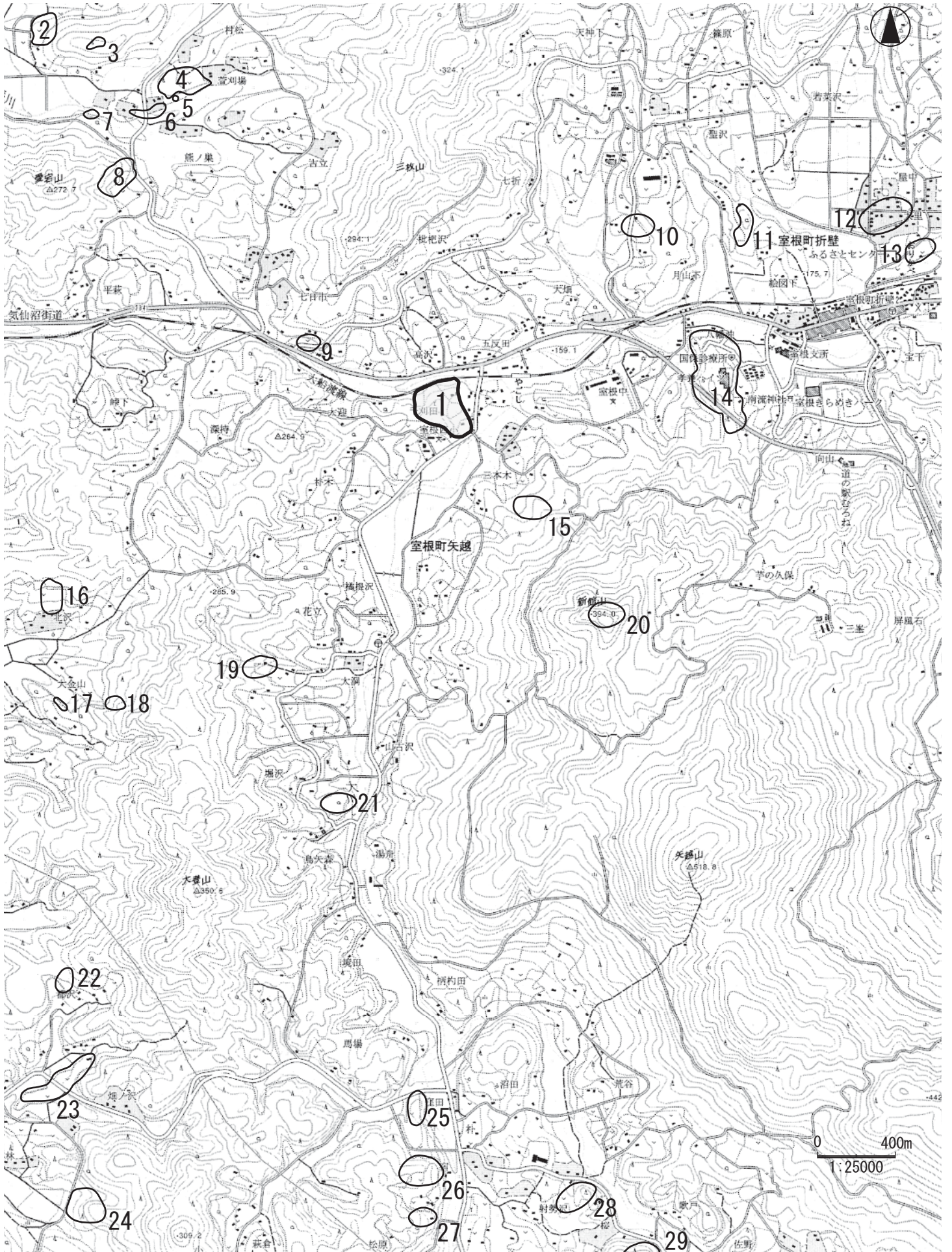
上折壁城遺跡(図2-1)はJR大船渡線矢越駅から南西に約0.4km、東西に延びる標高200m前後の丘陵の東端に位置する。南西から流れる大川は本遺跡の東で北流し、矢越駅を越えて流路を東に変える。その間には小規模な谷底平野を形成し、南にある新館山の北斜面には、緩斜面を作っている。北側には、東西方向にJR大船渡線、国道284号が併行して走り、北東に室根山がそびえ、南東に矢越山、南西に観音山が見え眺望がいい。また、南に接して一関市立室根西小学校がある。遺跡からの2.5km圏内では、北東には中館(図2-10)、金鶏城(図2-11)、折壁城(図2-12)、要害館(図2-13)、東には八幡沖(図2-14)、南東には新館山城(図2-20)、南西には児屋館(図2-21)、北西には殿金沢館跡(図2-8)などの中近世の城館が分布している。

上折壁城は、東西約230m、南北約250mの規模をもち、北側が広がる隅丸台形状を呈している。城の最高点は標高199mである。主郭は南東側に寄り、東西約50m、南北約75mを測り、東辺と西辺がやや内側に窪む隅丸長方形の形状を呈している。主郭の北西部分は畑の造成により段の一部が削平され傾斜になっている。主郭の北側に一段低い北側に伸びる平場があり、副郭的な役割を果たしていたものと推定される。この副郭の一段下に東西に大きく広がる平場があり、ここまでが城の範囲である。主郭から南西に幅約14～20m、長さ約120mの細長い平場が伸びており、この部分が何か特別な役割を果たしていたものと思われ注目される。この細長い平場と主郭の南西側に沿って、幅約10～15m、深さ約4～5mの空堀が北西方向に向かって走る。空堀の両側には一部土塁が残存している。空堀の西側には尾根を切る堀切があり、北側よりこの堀切まで小谷が入っている。遺跡の東端には、南北に約175m×東西約75mの平らな畑があり、家臣たちの居住地の一部だったと推定されている。

延宝年間(1673～1680)に仙台藩が幕府に提出した「仙台領古城書上」によれば、「山上折壁城 東西22間 南北29間 二の丸 東西28間 南北20間 城主千葉右京亮」とあり、安永4年(1775)に上折壁村肝入仲右衛門名で仙台藩へ提出された「風土記御用書出」によれば、「一 山吹城 南北25間 東西20間 右ハ葛西家臣千葉右馬之丞様御居城ニ御座候…」とある。この山吹城は上折壁城のことであるが、その名の起こりは、同じ「風土記御用書出」に上折壁城の南西にある建高寺の小名が山吹とあるので、この地名がつけられたものと考えられる。

城主については諸説あり、上記の「風土記御用書出」では、千葉右馬之丞であると伝えている。また「千葉系図」(上奥玉峯屋敷千葉家所蔵)によると、上折壁城城主は、金鶏城初代城主千葉重清の次男、越後守高尚がその創始ということになっている。しかし、のち両家の間には重婚や養子縁組がなされ、上折壁城城主の方が、本家をしのぐ実力者に成長したとも伝えられている。「封内名蹟誌」によれば、天正18年(1590)の葛西家滅亡戦に際して、上折壁城主千葉元中、金鶏城主千葉遠江守の両名とも(大原)山吹城主大原飛驒守に従って桃生郡深谷に至り、その地で謀殺されたとしている。

(光井)



1:25000 折壁、津谷川

図2 周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	種別	時代	主な遺構・遺物	備考
1	上折壁城 (山吹城、旭館)	城館跡	中近世	主郭、副郭、空堀	S59 試掘調査、市指定史跡
2	此ノ手館	城館跡	中世?		
3	行人塚	墳墓			
4	萱狩場Ⅰ	散布地	縄文	住居 縄文土器、石器、剥片	H15 新規、H16・17 試掘調査
5	鍛冶屋	生産遺跡	近世?	鉄滓	H15 新規
6	萱狩場Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、剥片	H15 新規
7	行人塚	墳墓?			
8	殿金沢館跡	城館跡	中近世		
9	七日市一里塚	一里塚	近世		市指定史跡、1基のみ残存
10	中館	城館跡	中世		現在屋敷地
11	金鶏城 (曲館、西城、下折壁城)	城館跡	中世	主郭、副郭、帯郭、空堀	市指定史跡、H30 試掘調査
12	折壁城(真山屋敷)	城館跡	近世		
13	要害館	城館跡	中世		遺構なし
14	八幡沖	狩猟場、城館跡	縄文・中近世	陥穴、土坑、墓坑、溝、堀状遺構 縄文土器、石器、近世陶磁器、古銭	
15	二本木経塚	経塚	近世		小山の中腹
16	北沢Ⅰ	散布地	縄文		
17	十王堂跡	寺院跡			
18	大金山金山跡	生産遺跡	中世?	採掘跡	
19	堀沢	散布地	縄文	縄文土器・石器	
20	新館山城(要害館)	城館跡	中世		
21	見屋館(鳥矢館)	城館跡	中世	主郭、土壇、腰郭	H12 公家館(NF93-0280)を統合
22	経塚	経塚			
23	畑ノ沢	散布地	縄文・弥生	縄文土器(後・晩期)、弥生土器、石鏃、石棒、石斧、石匙	
24	小林Ⅰ	散布地	縄文		
25	矢越古館	城館跡	中世	主郭、副郭、平場	
26	笹町城(午舞館)	城館跡	中世	主郭、帯郭、二重堀	
27	朝日館	城館跡	中世	平場、堀切	八郎右エ門神社あり
28	柴股城 (釘小本丸館、要害館)	城館跡	中世	主郭、副郭、帯郭、内堀、外堀	丘全体が城郭
29	行者館	城館跡	中世		遺構なし

表1 周辺遺跡一覧表

2 調査に至る経緯

上折壁城遺跡は、昭和55年（1980）9月1日に、当時の室根村教育委員会により村指定史跡に指定されている（指定名称は上折壁城跡）。その範囲は、指定書によれば、東西250m、南北200mに及ぶ。しかし、指定範囲を示す地図を作成していないため、現在のどの位置にあたるか明確になっていない。埋蔵文化財包蔵地の範囲が東西約220m、南北約250mであるため、一関市教育委員会ではこの範囲を史跡指定範囲として取り扱っている。

さて、令和元年（2019）5月27日付けで、一関市室根町矢越字千刈田51において住宅新築工事を行うとした試掘調査依頼書が提出された。自宅敷地内に新たな住宅を建築する目的で、掘削面積153㎡、土壌の造成工事を行うため最大深度1.5mの掘削を行う計画である。事業対象地は指定史跡及び埋蔵文化財包蔵地に隣接する。なお、地権者は指定史跡の所有者の一人である。

6月6日に試掘調査を実施したところ、掘削範囲に多数の柱穴と土坑を確認した。特に柱穴はトレンチ全体に広がっており、掘立柱建物の存在も考えられた。また、近世の陶磁器片を中心とした遺物も出土した。

この結果について、6月11日付け教文第03003号文書により回答し、その日のうちに住宅建築を担当する株式会社東北ミサワホーム岩手支店と計画変更について協議を実施したが、計画変更には至らなかった。地権者からはできるだけ早く調査を実施してほしいと要望があり、6月14日付けで文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これを受けて、6月19日付け教文第03009号文書により、工事に際して事前の発掘調査を実施するよう指示した。発掘調査は一関市教育委員会が実施することとし、7月から調査を開始した。

（菅原）



試掘調査の状況

3 調査結果

調査地点（一関市室根町矢越字千刈田51、図3、写真図版1-1・2）は、上折壁城遺跡の南東端に位置し、標高は約167mである。

現況は宅地となっており、個人住宅の新築工事に伴う掘削予定部分に調査区を設定し、重機を用いて表土を除去した後、遺構の確認を行った。

平面図の作成はトータルステーションによる実測と手作業による実測を併用した。また、断面図の実測はレベルを用いて水平を設定し手作業により行った。写真撮影は一眼レフデジタルカメラを用いた。

調査期間は令和元年7月16日～9月26日および10月23日～12月17日（実働67日）、調査面積は約153㎡である。

利用した測量基準杭の成果（世界測地系第X系）は、以下の通りである。

基KI-1 X = -118,286.592 Y = +51,392.749 H = 167.479

基KI-2 X = -118,362.890 Y = +51,446.152 H = 163.865

(1) 基本土層（図4、写真図版1-3・4）

I層:10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりなし。10YR6/6明黄褐色シルトを斑状に微量含む。表土。

II a～II l層:主体土は10YR3/4暗褐色、10YR2/2・10YR2/3黒褐色、10YR5/6黄褐色、10YR6/6明黄褐色のシルト。粘性なし。しまりややあり。それぞれ主体土以外の土色のシルトをブロック状に多量含む。整地のための盛土（後述、補足参照）。

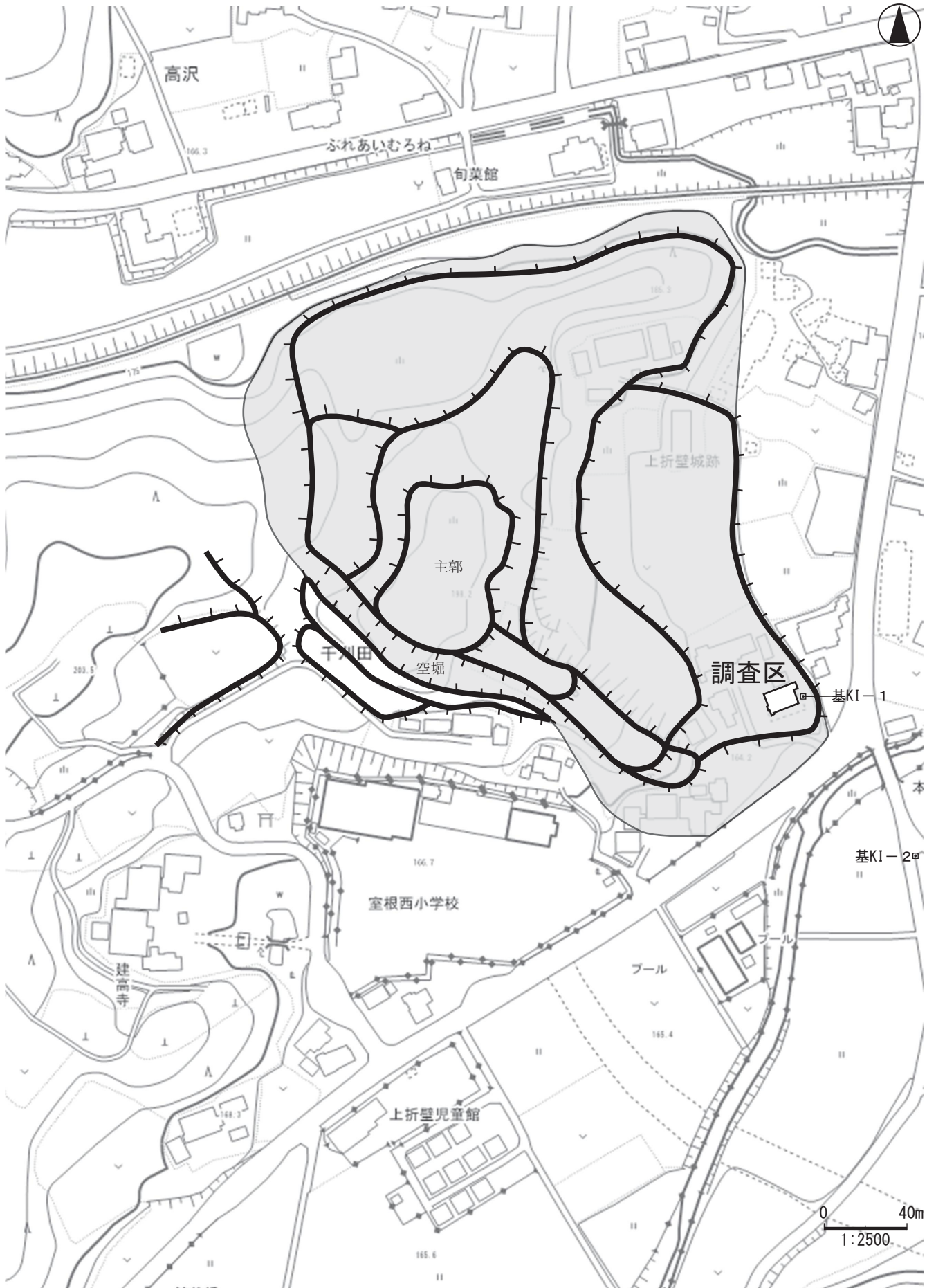
III a・III b層:10YR2/2・10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。10YR6/6明黄褐色シルトブロックを含む。畑耕作土。

IV層:10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。10YR4/4褐色、10YR6/6明黄褐色シルトを斑状に極微量含む。旧表土。

V層:10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまり強。地山。

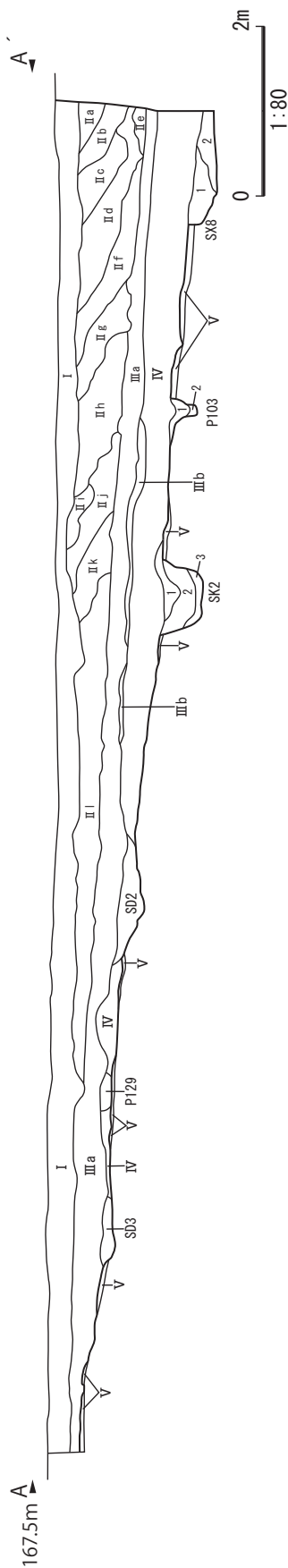
補足: II層について

調査区北壁の土層断面図（図4）から分かるように、II層は旧地形の斜面下方（東側）に向かって幾度も繰り返し盛土し、平坦面を東側に上げようとした整地作業の結果として形成されたと考えられる。土地所有者の皂文雄氏によれば、同家は明治14年（1881）に火災に遭っているということであり、想像を逞しくすれば、この火災が契機となって「皂屋敷（さいかちやしき）」の再整備がなされた結果がII層形成の直接の原因であった可能性もある。



※遺跡の範囲にトーンをかけ、調査区を白抜きにした。また、合成した縄張図は、紫桃正隆 1972「上折壁城」（『史料仙台領内古城・館』第1巻（岩手県南部（旧葛西領北部）宝文堂）、熊谷常正1986「上折壁城」（『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集、岩手県教育委員会）所収の図をもとに加筆した。

図3 上折壁城遺跡の範囲と調査区の位置



土層注記

- I 層 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。V層(地山)ブロックを極めて微量含む。
- II a層 10YR5/6黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。褐色(10YR4/4)シルトブロックを多量、黒褐色(10YR3/2)シルトブロックを微量含む。
- II b層 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/3)シルトブロックを極めて多量、V層(地山)ブロックを上位にやや多く含む。
- II c層 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR3/2)シルトブロックをやや多く含む。
- II d層 10YR3/4暗褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。V層(地山)ブロック、にぶい黄褐色(10YR5/4)シルトブロックを多量含む。
- II e層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。暗褐色(10YR3/4)シルトブロックを少量含む。
- II f層 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)シルトブロックを下半部にやや多く、暗褐色(10YR3/4)シルトブロックをやや多く含む。
- II g層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。V層(地山)ブロックを上半部に多量含む。
- II h層 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。暗褐色(10YR3/4)シルトブロックを多量、黒褐色(10YR2/2)シルトブロックを下半部にやや多く含む。
- II i層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。V層(地山)ブロックを下半部に多量含む。
- II j層 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)シルトブロックを上位に中量含む。
- II k層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。暗褐色(10YR3/4)シルトブロックを下部に多量、V層(地山)ブロックをやや多く含む。
- III 層 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。暗褐色(10YR3/4)シルトブロックを多量、V層(地山)ブロックを微量含む。
- III a層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。V層(地山)ブロックを微量含む。
- III b層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。明黄褐色(10YR6/6)シルトブロックを多量含む。
- IV 層 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。褐色(10YR4/4)シルトブロック、小礫を所々に微量、V層(地山)ブロックを極めて微量含む。
- V 層 10YR5/6黄褐色シルト。粘性なし。しまり強。黒褐色(10YR2/2)シルトブロックを上位に微量含む。

図4 調査区北壁土層断面図

(2) 確認した遺構と遺物

① 遺構

今回確認した遺構（図5）は、掘立柱建物3棟、柱列4条、柱穴群、溝4条、井戸2基、土坑6基、畑（小溝群）1群（小溝13条）である。

畑（小溝群）はⅢb層上面、それ以外をⅣ層上面（ただし、後世の攪乱によってⅣ層が失われている部分ではⅤ層〔地山〕上面）で確認した。

掘立柱建物

S B 1 掘立柱建物（図6、表2、写真図版2、3-1~4）

長軸3間、短軸2間の東西棟の側柱掘立柱建物である。方向は北側柱列で、N-85°-Eである。長軸4.30m、短軸2.35m、北側柱列の柱間は西から1.95m・1.10m・1.25m、東側柱列の柱間は北から1.55m・0.80m、南側柱列の柱間は西から1.50m・1.30m・1.50m、西側柱列の柱間は北から1.55m・0.80mを測る。P 30・33も本遺構に伴い、東西および南北の間仕切りとなる可能性がある。P 10・12・27・33・34・69・77・78では柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、P 77は円形に近いが、他はすべて楕円形で、規模は最小のP 8で0.26×0.24m、最大のP 34で0.71×0.32mである。各柱穴からの出土遺物はない。

S B 2 掘立柱建物（図7、表2、写真図版3-5~8、4-1~3）

長軸3間もしくは3間以上、短軸2間の東西棟の側柱掘立柱建物である。南東側はさらに調査区外に延びる。方向は北側柱列で、N-64°-Eである。長軸3.70m以上、短軸1.90m、北側柱列の柱間は西から1.65m・0.70m・1.35m、南側柱列の柱間は西から0.70m・以下未詳、西側柱列の柱間は北から0.95m・0.95mを測る。P 104・107・121では柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、P 104・105は円形に近いが、他はすべて楕円形で、規模は最小のP 107で0.26×0.24m、最大のP 123で推定0.44×0.34mである。各柱穴からの出土遺物はない。この建物はS B 3 掘立柱建物、S A 1~4 柱列と方向を共にする。それらのうちS A 2 柱列は、本遺構の西側・北側を遮蔽するものであった可能性がある。

S B 3 掘立柱建物（図8、表2、写真図版4-4~8、5-1~3）

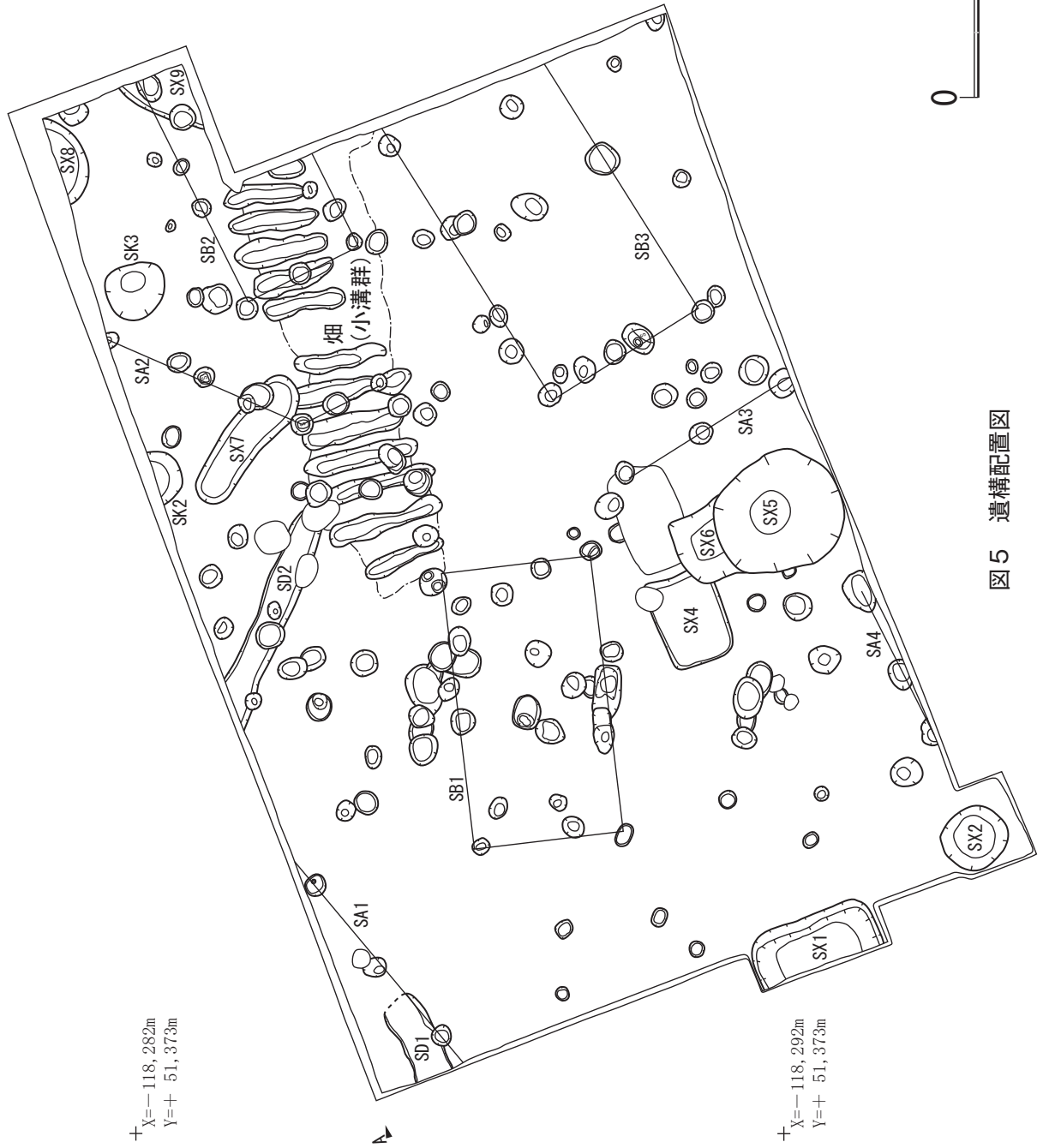
長軸3間もしくは3間以上、短軸2間の東西棟の側柱掘立柱建物である。東側はさらに調査区外に延びる。方向は北側柱列で、N-58°-Eである。長軸4.60m以上、短軸2.65m、北側柱列の柱間は西から1.50m・1.50m・1.60m、南側柱列の柱間は西から2.70m・以下未詳、西側柱列の柱間は北から1.20m・1.45mを測る。P 113も本遺構に伴い、東西および南北の間仕切りとなる可能性がある。P 46・96・113・128では柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、P 46は円形に近いが、他はすべて楕円形で、規模は最小のP 99で0.34×0.28m、最大のP 50で0.52×0.48mである。各柱穴からの出土遺物はない。この建物はS B 2 掘立柱建物、S A 1~4 柱列と方向を共にする。それらのうちS A 3 柱列は、本遺構の西側を遮蔽するものであった可能性がある。



N

+ X=-118, 282m
Y=+ 51, 373m

+ X=-118, 282m
Y=+ 51, 393m



+ X=-118, 292m
Y=+ 51, 373m

+ X=-118, 292m
Y=+ 51, 393m

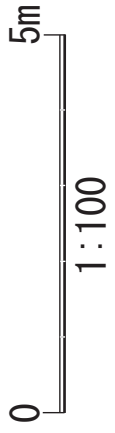


図5 遺構配置図

柱列

S A 1 柱列 (図6、表2、写真図版5-4~6)

3穴2間分を確認した。S D 1 溝と重複し、本遺構のほうが古い。方向は軸線で、N-50°-Eである。全長3.10m以上、柱間は西から1.40m・1.70mを測る。3基すべてで柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、楕円形で、規模は長軸0.34~0.36m、短軸0.30~0.32mとほぼ揃っている。各柱穴からの出土遺物はない。この柱列はS B 2・3掘立柱建物、S A 2~4柱列と方向を共にする。本遺構は調査区外の西・北方向に延びている可能性があり、掘立柱建物を構成する柱穴の一部であることも考えられる。

S A 2 柱列 (図7、表2、写真図版5-7・8、6-1~4)

6穴5間分(南から北に2間分、そこからやや東に向きをかえ3間分)を確認した。北側はさらに調査区外に延びることも考えられる。方向は南側軸線で、N-53°-W、北側軸線で、N-46°-Eである。全長4.65m以上、柱間は南から0.75m・0.60m・0.95m・0.75m・1.60mを測る。P 88・90・97・103では柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、P 88・90・97は円形に近いが、他は楕円形で、規模は最小のP 97で0.40×0.38m、最大のP 89で0.56×0.42mである。P 88・90の底面には、礫が据えられていた。礎板として用いられたと考えられる。各柱穴からの出土遺物はない。この柱列はS B 2・3掘立柱建物、S A 1・3・4柱列と方向を共にする。本遺構はそれらのうちS B 2掘立柱建物の西側・北側を遮蔽するものであった可能性がある。

S A 3 柱列 (図8、表2、写真図版6-5~7)

3穴2間分を確認した。南側はさらに調査区外に延びることも考えられる。方向は軸線で、N-34°-Wである。全長2.85m以上、柱間は北から1.35m・1.50mを測る。P 41・64では柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、楕円形で、規模は最小のP 62で0.34×0.29m、最大のP 64で0.48×推定0.40mである。各柱穴からの出土遺物はない。この柱列はS B 2・3掘立柱建物、S A 1・2・4柱列と方向を共にする。本遺構はそれらのうちS B 3掘立柱建物の西側を遮蔽するものであった可能性がある。

S A 4 柱列 (図9、表2、写真図版6-8、7-1・2)

3穴2間分を確認した。方向は軸線で、N-63°-Eである。全長2.50m以上、柱間は西から1.10m・1.40mを測る。P 40・59では柱痕跡がみられる。柱穴の掘方は、楕円形で、規模は最小のP 59で長軸0.43m、最大のP 40で長軸0.68mである。各柱穴からの出土遺物はない。この柱列はS B 2・3掘立柱建物、S A 1~3柱列と方向を共にする。本遺構は調査区外の東・西・南方向に延びている可能性があり、掘立柱建物を構成する柱穴の一部であることも考えられる。

柱穴群 (図13～18、表2)

今回の調査では、柱穴を129基確認した。そのうち42基は掘立柱建物および柱列を構成する柱穴であり、ここではそれらとして組み合わせることができなかった87基について触れる。柱痕跡がみられるのは、58基である。柱穴の掘方は、円形に近いもの、楕円形のものほとんどで、わずかに長楕円形のものもある。遺物は、P 20埋土から(染付)陶器小壺(図19-2)が出土している。口縁～体部の細片であり、口径は復元できなかった。18世紀代の瀬戸窯産である。また、P 21埋土から鉄釘、P 17・20・53から柱材が出土している。P 20およびP 53の柱材については、株式会社加速器分析研究所にAMS法による年代測定と樹種同定を委託している。結果、前者の年代は、17世紀後半～18世紀末(1652calAD - 1669calAD [26.9%]、1781calAD - 1798calAD [32.0%])、後者の年代は17世紀中頃(1644calAD - 1665calAD [60.4%])、樹種は双方ともクリであることが判明している。

溝

S D 1 溝 (図6、写真図版7-3)

S A 1 柱列と重複し、本遺構のほうが新しい。長さ1.35m以上、幅0.55～0.60mで、西側はさらに調査区外に延びる。走行方向はN-64°-E、断面形状は皿状を呈し、深さ0.10mである。遺物は出土していない。

S D 2 溝 (図11、写真図版7-4)

長さ3.40m以上、幅0.45～0.55mで、北側はさらに調査区外に延びる。走行方向はN-66°-W、断面形状は皿状を呈し、深さ0.08mである。遺物は出土していない。

S X 1 溝 (図10、写真図版7-5～7)

長さ0.90m以上、幅2.00mで、西側はさらに調査区外に延びる。走行方向はN-70°-E、断面形状は逆台形状を呈し、深さ1.15mである。遺物は出土していない。大規模で、上折壁城が中世城館として機能していた時期の堀の東端部を確認した可能性がある。

S X 7 溝 (図11、写真図版7-8)

長さ2.30m、幅0.60～0.65m、走行方向はN-55°-W、断面形状は皿状を呈し、深さ0.10mである。遺物は出土していない。

井戸

S X 5 井戸 (図9、写真図版8-1)

S X 6 井戸と重複し、本遺構のほうが新しい。長軸2.00m、短軸1.80m、深さ1.75mである。素掘りで、遺物は出土していない。

S X 6 井戸 (図9、写真図版8-2・3)

S X 5 井戸、S X 4 土坑と重複し、本遺構のほうが古い。長軸1.10m以上、短軸0.90m、深さ1.20mである。素掘りで、遺物は出土していない。

土坑

S K 2 土坑（図11、写真図版8-4・5）

長軸0.85m、短軸0.40m以上で、北側はさらに調査区外に延びる。断面形状は上部が開くU字形を呈し、深さ0.55mである。遺物は出土していない。

S K 3 土坑（図7、写真図版8-6）

長軸0.95m、短軸0.85m。断面形状は皿状を呈し、深さ0.07mである。遺物は出土していない。

S X 2 土坑（図9、写真図版8-7・8、9-1）

長軸1.00m、短軸0.90m。断面形状は上部が開くU字形を呈し、深さ0.20mである。遺物は、磁器碗、石製品（砥石か）、被熱し炭化物（煤）が付着した石製品、被熱した礫、混凝土が出土している。図19-1は、1層から出土した（染付）磁器碗で、高台部径4.2cm。体部～底部が遺存する。19世紀代の在地系窯産である。

S X 4 土坑（図9、写真図版9-2・3）

長軸1.40m、短軸1.05m、深さ（残存している埋土の厚さ）0.10mの土坑墓である。断面形状は上部が改葬によるとみられる掘り込みによって失われているため、未詳だが、箱形を呈していたとみられる。遺物は、改葬の際の掘り込みが及ばなかった部分から、埋葬された人骨の断片とともに副葬品とみられる銭貨（寛永通宝鉄四文銭か）、青銅製のリング状製品、板状の木製品が出土している。

S X 8 土坑（図7、写真図版9-4）

長軸1.40m、短軸0.45m以上。北側はさらに調査区外に延びる。断面形状は上部が開くU字形を呈し、深さ0.30mである。遺物は出土していない。

S X 9 土坑（図7、写真図版9-5）

長軸1.45m、短軸0.80m。東・北側はさらに調査区外に延びる。断面形状は皿状を呈し、深さ0.20mである。遺物は出土していない。

畑（小溝群）（図12、写真図版9-6～8）

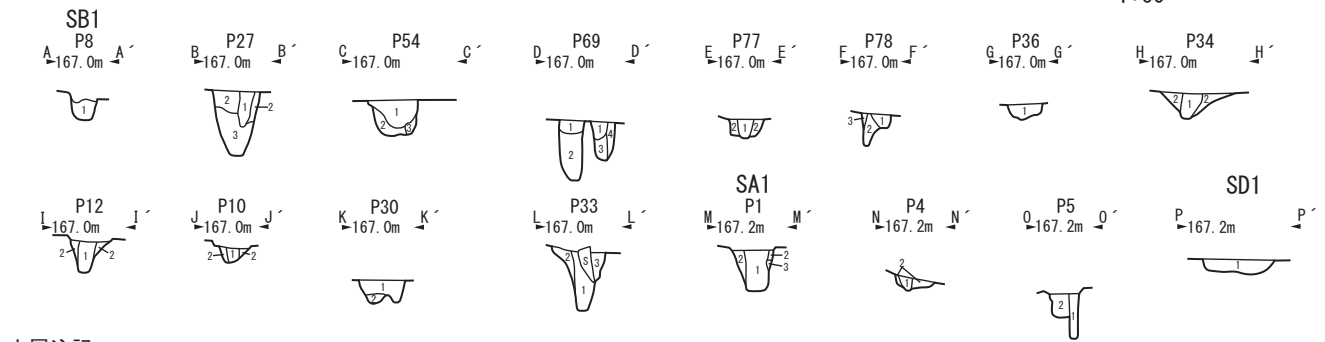
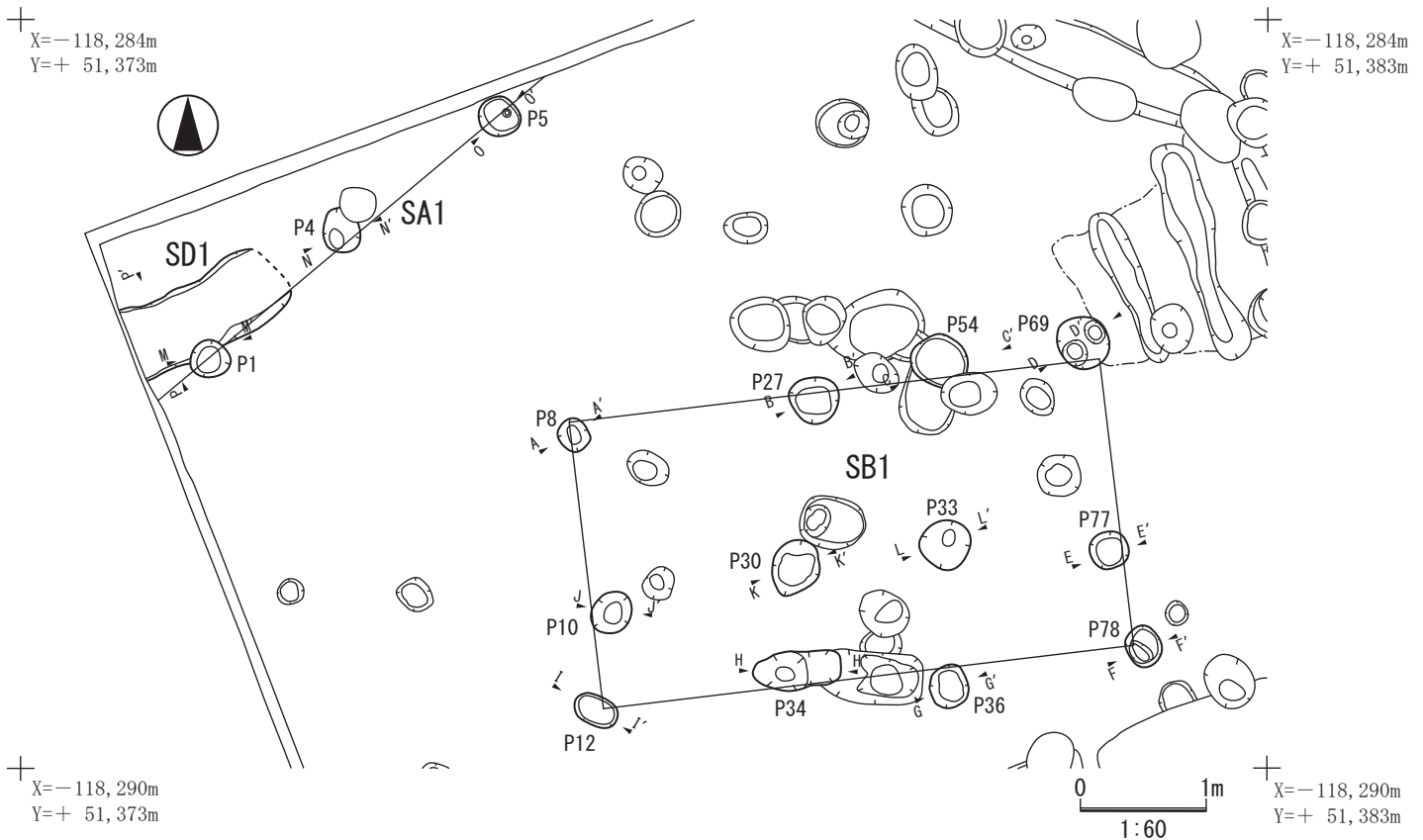
Ⅲb層（畑耕作土：厚さ0.10m前後）上面で小溝を13条並んだ状態で確認した。方向は概ね軸線で、N-15°-Wである。長さ0.55～1.85m、幅0.15～0.45m、深さ0.05～0.15m、断面形状は皿状もしくは上部が開くU字形を呈する。遺物は出土していない。畑の耕作にともなう天地返しの際の痕跡であると考えられる。

遺構名	規模 (cm)					底面標高 (m)	備考
	上端		下端		深さ		
	長軸	短軸	長軸	短軸			
P1	34	30	21	18	32	166.68	柱痕あり
P2	22	20	16	14	20	166.79	柱痕あり
P3	25	23	19	18	17	167.27	
P4	36	30	16	12	13	166.66	柱痕あり
P5	34	32	28	21	19	166.45	柱痕あり
P6	33	28	10	12	52	166.10	柱痕あり
P7	38	36	30	27	35	166.25	柱痕あり
P8	26	24	15	10	22	166.55	
P9	36	26	20	15	31	167.19	
P10	36	31	18	13	18	166.72	柱痕あり
P11	28	25	16	12	19	166.62	柱痕あり
P12	36	22	9	9	29	166.64	柱痕あり
P13	28	25	21	19	19	166.69	柱痕あり
P14	28	21	18	15	13	166.82	柱痕あり
P15	22	21	14	11	10	166.88	
P16	(24)	21	(19)	14	23	166.68	
P17	49	43	21	18	47	166.32	柱痕、柱材あり
P18	30	22	22	15	16	166.89	柱痕あり
P19	40	31	23	19	26	166.64	柱痕あり
P20	64	45	66	33	75	166.24	柱痕、柱材あり
P21	48	41	18	16	64	166.24	柱痕あり
P22	30	24	22	16	20	166.66	柱痕あり
P23	24	34	30	22	28	166.22	柱痕あり
P24	42	40	27	26	21	166.36	柱痕あり
P25	50	44	38	29	22	166.39	
P26	41	34	29	22	40	166.24	柱痕あり
P27	40	37	28	22	52	166.24	柱痕あり
P28	46	34	25	20	42	166.25	柱痕あり
P29	40	33	12	11	35	166.27	柱痕あり
P30	(48)	38	33	26	19	166.48	
P31	57	43	48	33	24	166.52	柱痕あり
P32	41	35	24	15	47	166.30	柱痕あり
P33	42	40	14	10	51	166.32	柱痕あり
P34	71	32	12	10	21	166.56	柱痕あり
P35	(82)	42	26	24	34	166.47	柱痕あり
P36	36	32	28	20	12	166.55	
P37	28	28	21	21	14	166.60	柱痕あり
P38	46	41	31	27	19	166.57	柱痕あり
P39	48	(30)	30	(21)	68	166.19	
P40	68	(46)	51	25	44	166.36	柱痕あり
P41	38	32	20	19	23	166.36	柱痕あり
P42	31	29	10	8	22	166.32	
P43	35	28	20	18	12	166.39	
P44	47	45	38	28	21	166.33	
P45	53	39	34	30	57	165.90	柱痕あり
P46	35	33	25	24	30	166.19	柱痕あり
P47	(51)	46	31	24	59	165.57	柱痕あり
P48	41	40	28	24	42	165.45	柱痕あり
P49	38	34	30	25	36	165.88	柱痕あり
P50	52	48	42	37	14	166.17	
P51	37	-	30	-	31	166.40	柱痕あり
P52	38	28	15	12	47	166.24	柱痕あり
P53	81	(57)	58	42	49	166.23	柱痕、柱材あり
P54	(46)	41	(38)	34	26	166.42	
P55	(54)	46	(48)	39	33	166.40	柱痕あり
P56	35	-	23	-	19	166.54	柱痕あり
P57	30	-	21	-	16	166.74	
P58	60	40	42	32	38	166.48	柱痕あり
P59	43	-	22	-	22	166.58	柱痕あり
P60	29	-	22	-	19	166.61	
P61	44	38	20	15	46	166.32	
P62	34	29	22	20	35	166.41	
P63	40	36	24	23	55	166.10	柱痕あり
P64	48	(40)	(22)	16	45	166.18	柱痕あり
P65	34	27	(22)	16	31	166.44	

遺構名	規模 (cm)					底面標高 (m)	備考
	上端		下端		深さ		
	長軸	短軸	長軸	短軸			
P66	45	44	21	18	46	166.13	柱痕あり
P67	50	32	26	19	38	166.17	柱痕あり
P68	44	39	28	26	39	166.14	柱痕あり
P69	43	41	40	40	12	165.78	柱痕2つあり
P70	31	-	22	-	24	166.30	
P71	41	40	13	10	40	166.09	柱痕あり
P72	28	24	10	8	40	165.91	
P73	45	35	27	22	16	166.24	
P74	45	43	36	32	12	166.24	
P75	32	25	20	15	16	166.20	
P76	37	34	20	17	27	166.29	柱痕あり
P77	33	31	23	21	17	166.36	柱痕あり
P78	35	31	18	8	28	166.30	柱痕あり
P79	21	18	14	13	13	166.42	
P80	22	-	16	-	12	166.53	
P81	34	18	19	9	22	166.24	柱痕あり
P82	37	34	24	18	31	166.21	柱痕あり
P83	38	31	22	15	41	165.95	柱痕あり
P84	(26)	23	(23)	21	28	166.12	柱痕あり
P85	38	32	28	25	13	166.36	柱痕あり
P86	35	28	28	20	32	165.64	
P87	36	29	26	18	20	165.76	
P88	33	30	21	18	37	165.63	柱痕、礎板あり
P89	56	42	(42)	34	15	165.93	
P90	34	34	22	22	17	165.97	柱痕、礎板あり
P91	41	35	31	30	11	166.04	
P92	28	24	15	20	41	165.73	柱痕あり
P93	36	34	24	23	13	166.06	柱痕あり
P94	34	32	19	17	24	166.00	柱痕あり
P95	29	27	21	19	12	166.04	
P96	37	32	19	18	31	166.05	柱痕あり
P97	40	38	22	18	57	165.82	柱痕あり
P98	29	24	8	4	10	166.11	
P99	34	28	21	16	8	166.15	
P100	28	23	15	14	20	166.14	柱痕あり
P101	41	32	18	24	20	166.16	柱痕あり
P102	38	34	26	24	15	166.21	
P103	-	24	-	10	24	165.59	柱痕あり
P104	34	31	29	21	16	165.82	柱痕あり
P105	35	33	24	22	59	165.41	
P106	27	22	12	5	26	165.67	柱痕あり
P107	26	24	17	15	35	165.55	柱痕あり
P108	39	29	24	17	19	165.77	
P109	40	34	30	24	36	165.67	
P110	34	28	20	16	18	165.87	柱痕あり
P111	43	35	22	17	52	165.56	
P112	26	22	16	10	28	165.86	
P113	56	42	28	18	48	165.60	柱痕あり
P114	36	35	20	13	41	165.57	柱痕あり
P115	14	12	13	12	24	165.75	
P116	28	28	19	17	22	165.90	
P117	-	28	-	14	38	165.63	柱痕あり
P118	19	14	8	6	8	165.74	
P119	30	28	21	17	28	165.56	
P120	24	20	10	8	22	165.50	柱痕あり
P121	27	22	20	14	17	165.59	
P122	42	-	23	-	9	165.39	
P123	(44)	34	(27)	21	24	165.41	
P124	37	24	22	15	41	166.12	柱痕あり
P125	26	20	8	6	12	166.03	
P126	22	18	14	10	9	166.31	柱痕あり
P127	29	26	23	19	10	165.80	柱痕あり
P128	35	32	14	11	29	165.62	柱痕あり
P129		45		33	13	166.56	北壁にかかる

※ () は、推定。 - は、計測不能。

表2 柱穴一覧表



土層注記

SB1

- P8 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。上位に地山ブロックを極微量含む。
- 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
- 3 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりあり。地山大ブロックを極多量含む。掘方埋土上層。
- 4 10YR5/6黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。掘方埋土下層。
- P27 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
- 3 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P69 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山中ブロックを中量含む。柱抜取穴。
- 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。柱痕跡。
- 3 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山大ブロックを多量含む。柱痕跡。
- 4 10YR2/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P77 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P78 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱抜取穴。
- 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
- 3 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。掘方埋土。
- P36 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量、炭化物粒を極微量含む。
- P34 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。下位に黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P12 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR3/3暗褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトブロックを極微量含む。掘方埋土。
- P10 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを全体に極微量、炭化物粒を極微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。褐色(10YR4/4)シルト小ブロック、地山小ブロックを少量含む。掘方埋土。
- P30 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。東側に地山大ブロックを中量含む。炭化物粒を極微量含む。
- 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを極微量含む。
- P33 1 10YR3/1黒褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。亜角礫(長径30cm)を含む。柱痕跡。
- 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量、黒色(10YR2/1)粘土質シルト小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- 3 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを微量含む。掘方埋土。

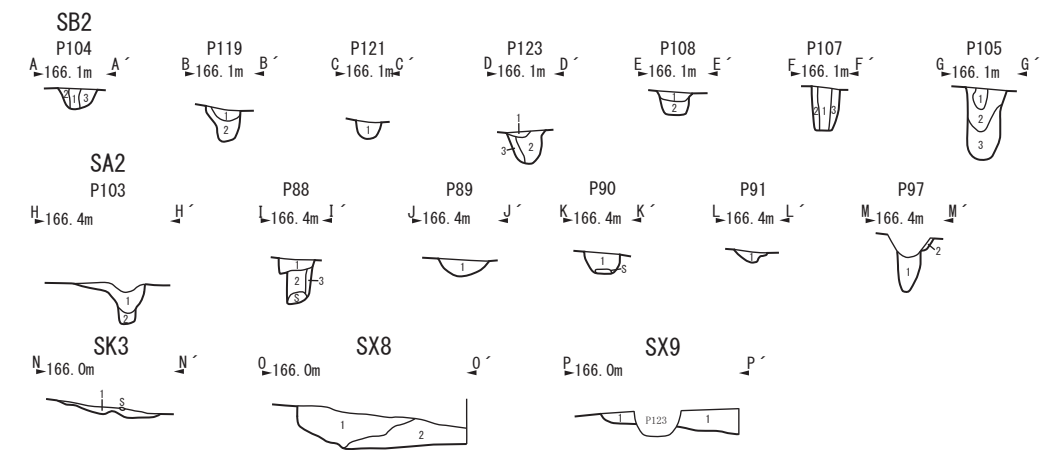
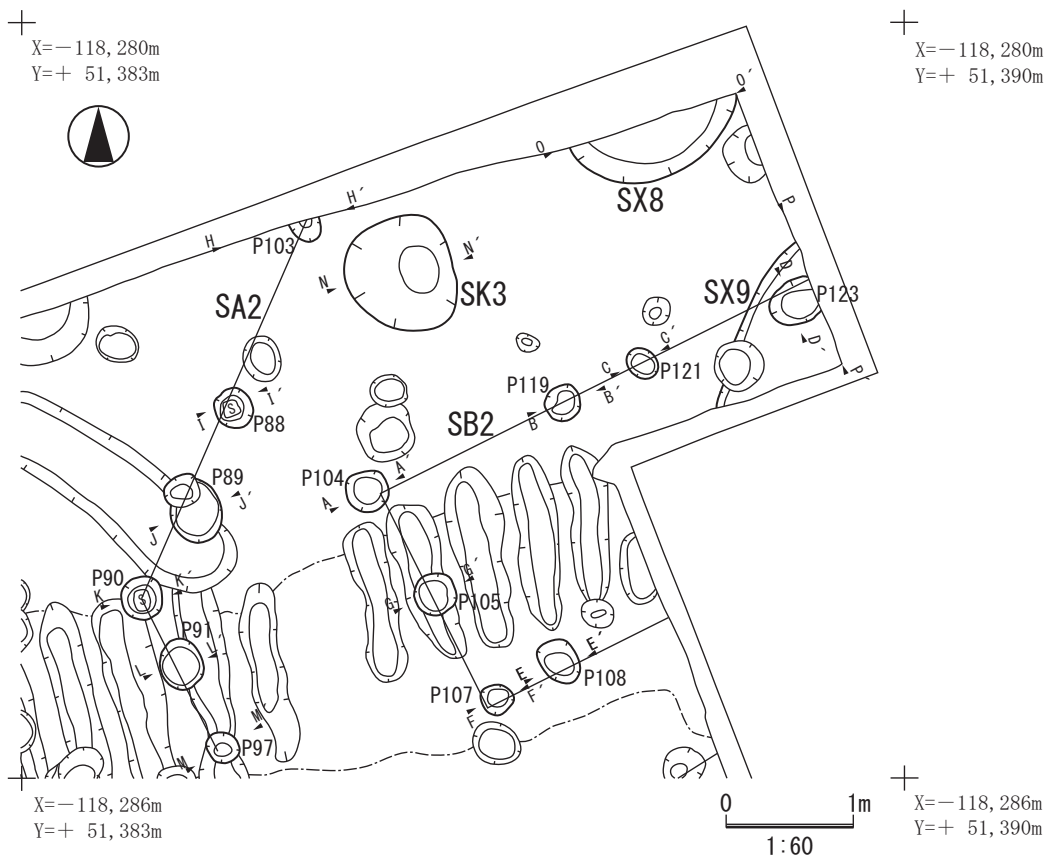
SA1

- P1 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。掘方埋土上層。
- 3 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。掘方埋土下層。
- P4 1 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。黄褐色(10YR5/6)シルト小ブロックを微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR5/6黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。上位を中心に黒褐色(10YR3/2)シルトを少量含む。掘方埋土。
- P5 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
- 2 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。掘方埋土。

SD1

- 1 10YR3/3暗褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。

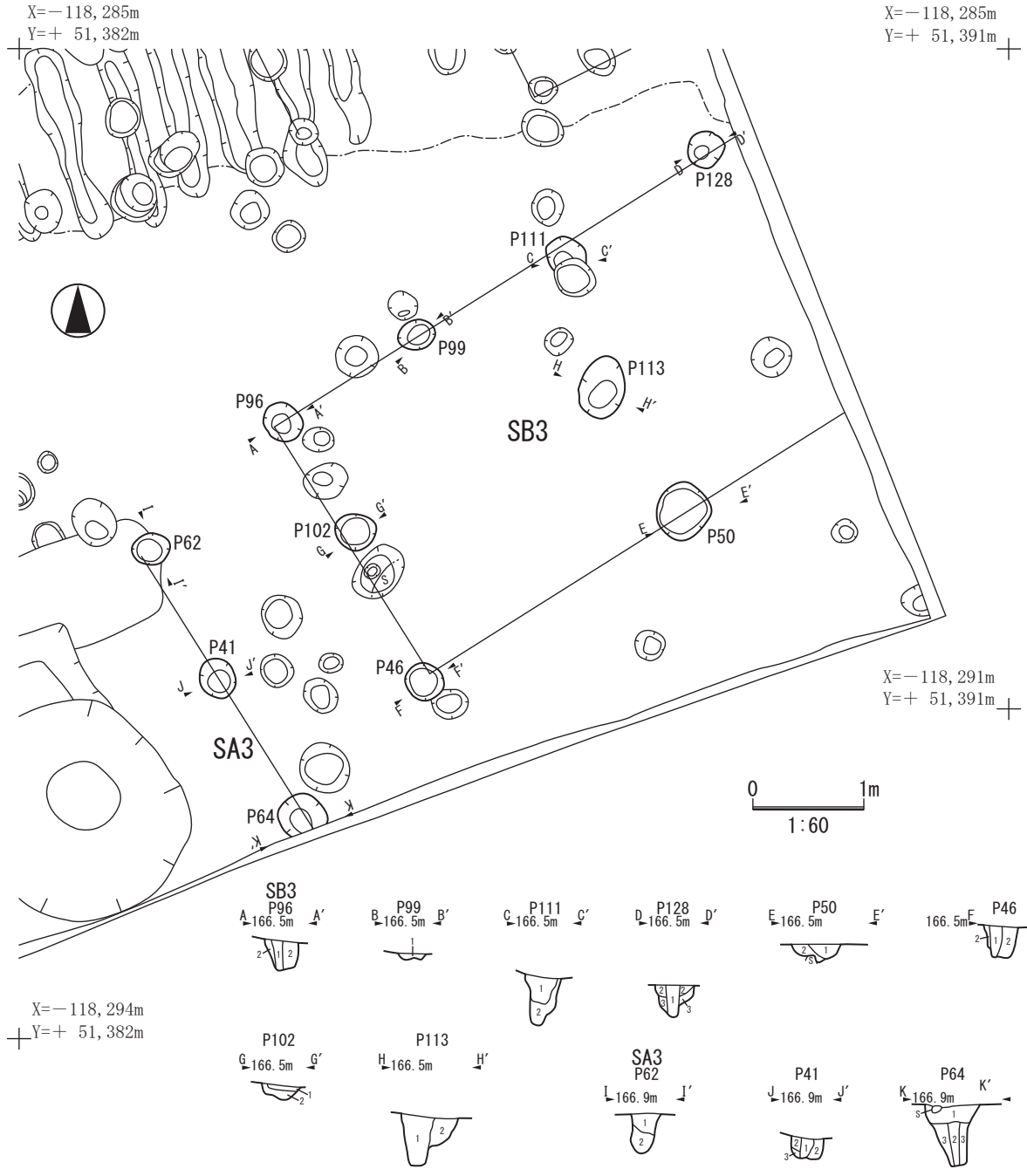
図6 SB1、SA1、SD1



土層注記

- SB2** P104 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。下半部に地山ブロックを中量含む。柱痕跡。
 2 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを中量含む。掘方埋土。
 3 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
 P119 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
 P121 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを多量含む。
 P123 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。
 2 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりあり。上半部に地山小ブロックを多量含む。
 3 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。下位に地山小ブロックを多量含む。
 P108 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。
 2 10YR5/6黄褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりあり。黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトを中量含む。
 P107 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。上位に地山を中量含む。掘方埋土。
 3 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
 P105 1 10YR2/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。
 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロック多量含む。
 3 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。
SA2 P103 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。柱抜取穴。
 2 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。柱痕跡。
 P88 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱抜取穴。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。柱痕跡。底面に礎板が埋置されている。
 3 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりあり。明黄褐色(10YR6/6)シルト小ブロックを多量含む。掘方埋土。
 P89 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
 P90 1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。炭化物(径1cm)を含む。柱痕跡。底面礎板が埋置されている。
 P91 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。
 P97 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
SK3 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
SX8 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
SX9 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。

図7 SB2、SA2、SK3、SX8・9



土層注記

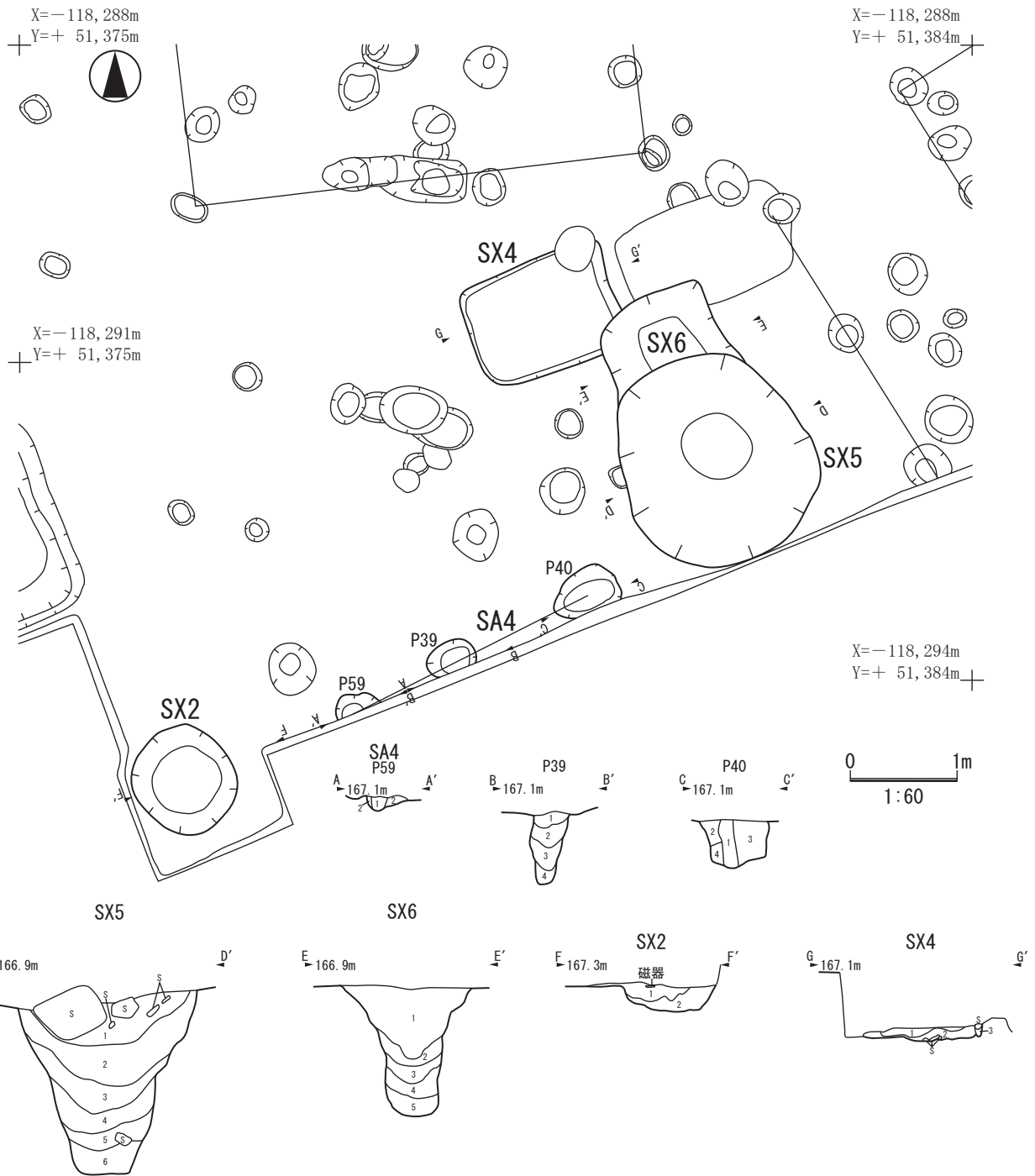
SB3

- P96 1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小・中ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P99 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山ブロックを中量含む。
2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P111 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまり弱い。地山小ブロックを極微量含む。
2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P128 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。掘方埋土上層。
3 10YR3/3褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを極多量含む。掘方埋土下層。
- P50 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。下位に地山ブロック、中に黒褐色(10YR3/1)シルト大ブロックを中量含む。
- P46 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P102 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
- P113 1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土。

SA3

- P62 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P41 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量、炭化物粒を極微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土上層。
3 10YR4/4褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土下層。
- P64 1 10YR2/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。柱抜取穴。
2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。柱痕跡。
3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。掘方埋土。

図8 SB3、SA3



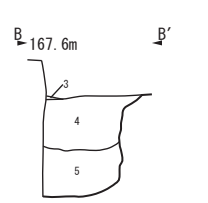
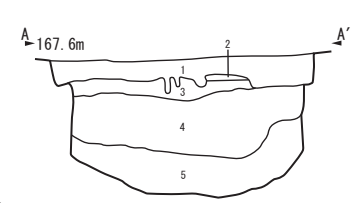
土層注記

- SA4** P59
- 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。柱痕跡。
 - 2 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。掘方埋土。
- P39
- 1 10YR6/8明黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト小ブロックを中量含む。
 - 2 10YR4/4褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロック、黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを微量含む。
 - 3 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。
 - 4 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。
- P40
- 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 - 2 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土上層。
 - 3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山大ブロックを極多量、上位に暗褐色(10YR3/3)シルトブロックを極微量含む。掘方埋土中層。
 - 4 10YR5/6黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。暗褐色(10YR3/3)シルト小ブロックを中量含む。掘方埋土下層。
- SX5**
- 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりなし。上部に巨大な礫(長径約70~90cm)を含む。下位に地山ブロックを極微量含む。
 - 2 10YR6/4にぶい黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。黒褐色(10YR3/1)シルトブロックを多量含む。
 - 3 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを多量含む、互層状をなす。
 - 4 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。黒褐色(10YR2/1)シルトブロックを多量含む。
 - 5 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりあり。地山ブロックを多量含む。
 - 6 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山ブロックを微量含む。
- SX6**
- 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。下位に地山小ブロックを極微量含む。
 - 2 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりあり。黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトを中量含む。
 - 3 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。
 - 4 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山ブロックを中量含む。
 - 5 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山ブロックを中量含む。
- SX2**
- 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりなし。中位、下位に地山ブロックを中量含む。炭化物、炭化物粒、焼土粒を微量含む。
 - 2 10YR4/4褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。炭化物、炭化物粒を中量、焼土粒を微量含む。
- SX4**
- 1 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。
 - 2 10YR2/1黒色シルト。粘性なし。しまりややあり。にぶい黄褐色(10YR6/4)シルト小ブロックを微量含む。
 - 3 10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。亜角礫を含む。

図9 SA4、SX2・4~6

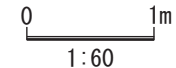
X=-118,291m⁺
Y=+ 51,374m

X=-118,291m⁺
Y=+ 51,377m



土層注記

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量、炭化物粒を極微量含む。
- 2 10YR5/6黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。下に黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを微量含む。
- 3 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- 4 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。暗褐色(10YR3/4)シルトブロックを微量、地山小ブロックを多量含む。
- 5 10Y3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山中・大ブロックを極多量含む。



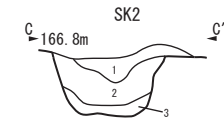
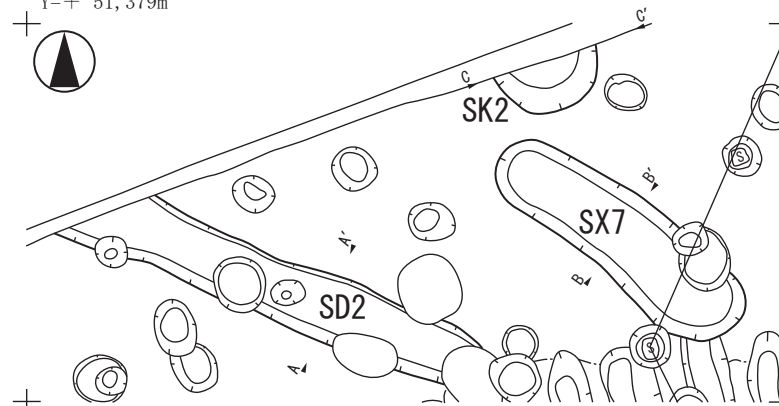
X=-118,294m⁺
Y=+ 51,374m

X=-118,294m⁺
Y=+ 51,377m

図10 SX1

X=-118,282m
Y=+ 51,379m

X=-118,282m
Y=+ 51,385m



土層注記

- SD2 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- SX7 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。下半部に地山小ブロックを多量含む。
- SK2 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
2 10YR3/1黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。
3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。小礫を微量含む。

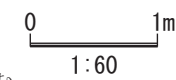
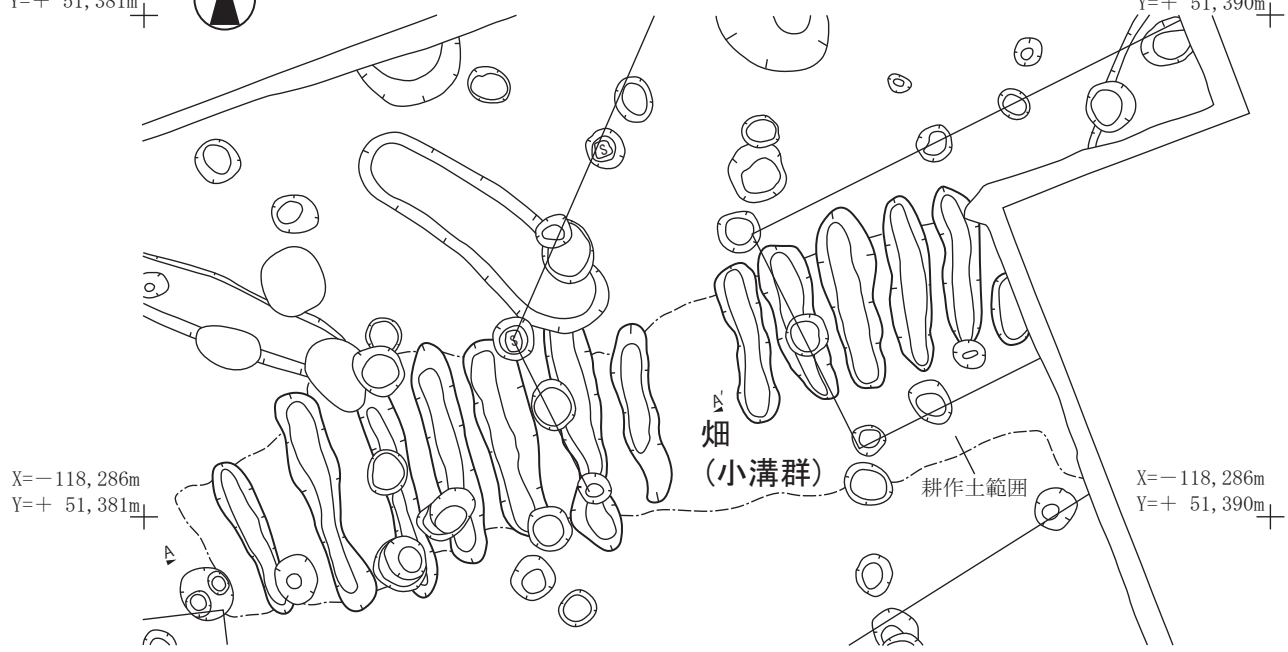


図11 SD2、SX7、SK2

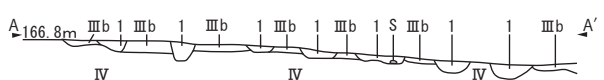
X=-118,282m
Y=+ 51,381m

X=-118,282m
Y=+ 51,390m



X=-118,286m
Y=+ 51,381m

X=-118,286m
Y=+ 51,390m



土層注記

- 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性なし。しまりややあり。上位に地山ブロックを多量含む。小溝(畑耕作痕)埋土。
- IIIb層 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。明黄褐色(10YR6/6)シルトブロックを極多量含む。畑耕作土。
- IV層 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。

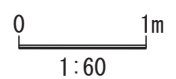
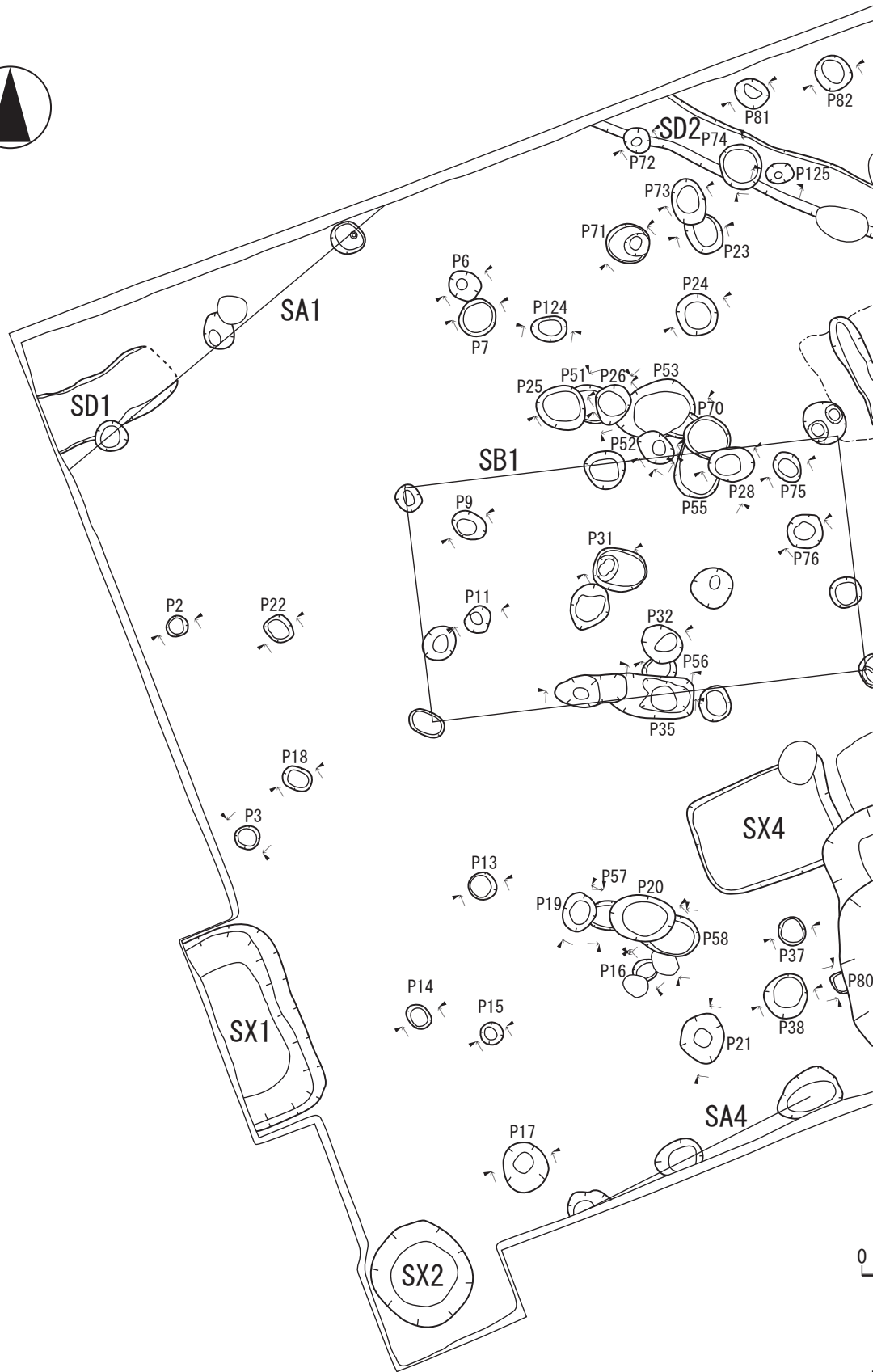


図12 畑 (小溝群)

X=-118,282m
Y=+ 51,373m

X=-118,282m
Y=+ 51,382m



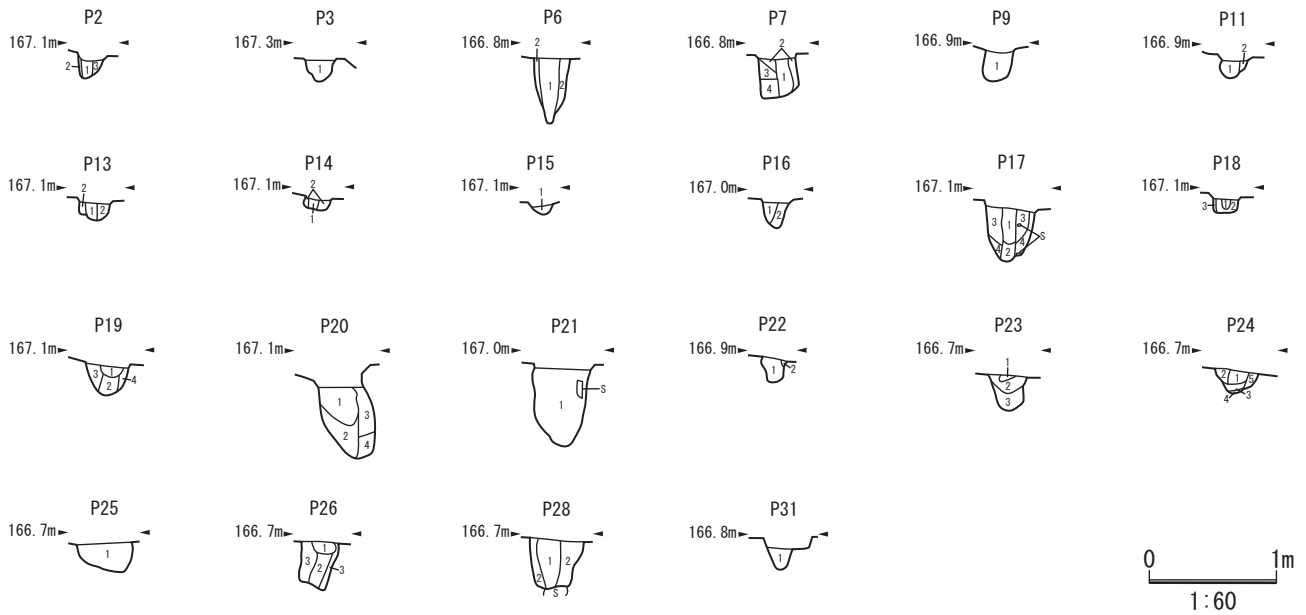
X=-118,296m
Y=+ 51,373m

X=-118,296m
Y=+ 51,382m

0 1m
1:60

図13 柱穴群（西半部）平面図

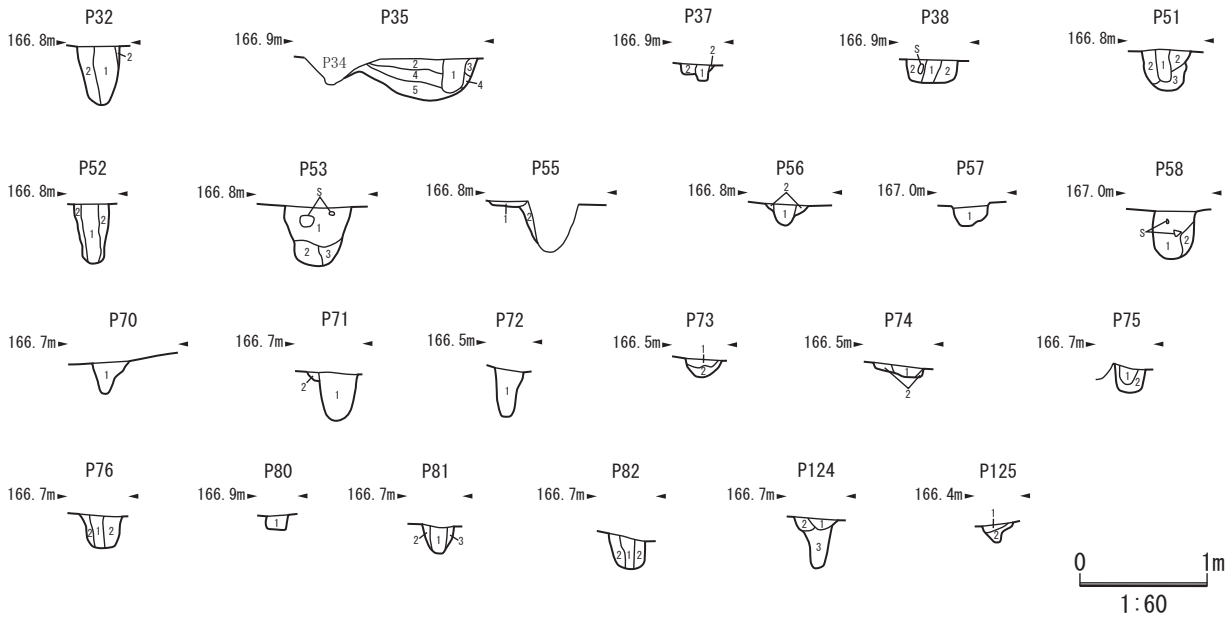
※ ▸(断面図始点)・▸(断面図終点)に取り付く↑(矢印)は、その柄から先を見た断面図を作成していることを示す。



土層注記

- P2 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR5/6黄褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。掘方埋土。
 3 10YR5/6黄褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。下位に黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P3 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量、炭化物粒を極微量含む。中位に黄褐色(10YR5/6)シルト中ブロック(径6cm大)を中量含む。
- P6 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりあり。黄褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを含む。柱痕跡。
 2 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロック多量、黄褐色(10YR5/6)シルト小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P7 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。柱痕跡。
 2 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト小ブロックを極微量含む。掘方埋土上層。
 3 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山ブロックを極微量含む。掘方埋土中層。
 4 10YR7/6明黄褐色シルト。粘性ややあり。しまりあり。下位に黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトブロックを微量含む。掘方埋土下層。
- P9 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。上半部ににぶい黄褐色(10YR5/4)シルト小ブロックを中量含む。炭化物粒を微量含む。
 P11 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりなし。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
 2 10YR5/6黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりあり。黒褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを極微量含む。掘方埋土。
- P13 1 7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。柱痕跡。
 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりあり。地山ブロック、炭化物粒を極微量含む。掘方埋土。
- P14 1 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土。
- P15 1 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりなし。地山小ブロックを微量含む。
- P16 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。
 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P17 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。上位に黄褐色(10YR5/6)砂質シルト大ブロックを中量含む。柱痕跡上層。
 2 10YR6/4にぶい黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを極微量含む。柱痕跡下層。
 3 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。上位に地山ブロックを中量含む。掘方埋土上層。
 4 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。黒褐色(10YR3/2)小ブロックを極微量含む。掘方埋土下層。
- P18 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを微量含む。掘方埋土上層。
 3 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。上位に黒褐色(10YR2/2)シルトブロックを極微量含む。掘方埋土下層。
- P19 1 7.5YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。炭化物粒を極微量含む。柱抜取穴。
 2 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。明黄褐色(10YR6/6)シルトブロックを中量含む。柱痕跡。
 3 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土。
 4 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。亜角小礫(径1cm)を微量含む。掘方埋土。
- P20 1 10YR3/2黒褐色シルトと明黄褐色シルト(10YR6/6、地山起源)との混合土(2:3)。粘性なし。しまりややあり。柱抜取穴。
 2 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりなし。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
 3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山の小ブロックを極微量含む。掘方埋土上層。
 4 10YR2/2黒褐色砂質シルト。粘性なし。しまりなし。掘方埋土下層。
- P21 1 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山大ブロックを多量含む。柱痕跡。
 P22 1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量、炭化物粒を極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P23 1 10YR5/6黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを中量含む。柱抜取穴上層。
 2 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。上位に黒褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを微量含む。地山小ブロックを微量含む。柱抜取穴下層。
 3 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山ブロックを微量含む。柱痕跡。
- P24 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
 3 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。掘方整形土上層。
 4 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりあり。掘方整形土中層。
 5 10YR3/4暗褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト小ブロックを極微量含む。明黄褐色(10YR6/6)シルト小ブロックを微量含む。掘方整形土下層。
- P25 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山ブロックを中量含む。にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト小ブロックを微量含む。
 P26 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中・大ブロックを極多量含む。柱抜取穴。
 2 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。中位に地山ブロックを中量含む。柱痕跡。
 3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中・大ブロックを多量含む。掘方埋土。
 P28 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりあり。地山ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P31 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。

図14 柱穴群(西半部)断面(1)



土層注記

- P32 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。上位に地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P35 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中ブロック極多量、炭化物粒を極微量含む。掘方埋土上層。
 3 10YR3/3暗褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土中層。
 4 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土下層。
 5 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山大ブロックを極多量多く含む。掘方埋土整形土。
- P37 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P38 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P51 1 10YR2/3黒褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中ブロックを多量含む。掘方埋土。
 3 10YR3/3暗褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方整形土。
- P52 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土。
- P53 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中ブロックを多量含む。褐色(10YR4/4)シルト小ブロックを極微量含む。柱抜取穴。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。褐色(10YR4/4)シルト小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 3 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P55 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中ブロックを微量含む。柱抜取穴。
 2 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。柱痕跡。
- P56 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを多量、炭化物粒を極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR6/6明黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR2/2)シルト小ブロックを極多量含む。掘方埋土。
- P57 1 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。地山大ブロックを極多量含む。
- P58 1 10YR5/6黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR3/3暗褐色砂質シルト。粘性なし。しまりややあり。壁際に地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P70 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P71 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P72 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P73 1 10YR3/3暗褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。褐色(10YR4/4)シルト小ブロックを多量含む。
 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。壁際に黒色(10YR2/2)シルト小ブロックを微量含む。
- P74 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
 2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを微量含む。
- P75 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。暗褐色(10YR3/3)シルト小ブロックを極微量含む。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。
- P76 1 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P80 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。
- P81 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山大ブロックを多量含む。掘方埋土。
 3 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P82 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P124 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱抜取穴上層。
 2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりあり。地山中ブロックを多量含む。柱抜取穴下層。
 3 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
- P125 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
 2 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。

図15 柱穴群(西半部)断面(2)

X=-118,280m
Y=+ 51,382m

X=-118,280m
Y=+ 51,389m

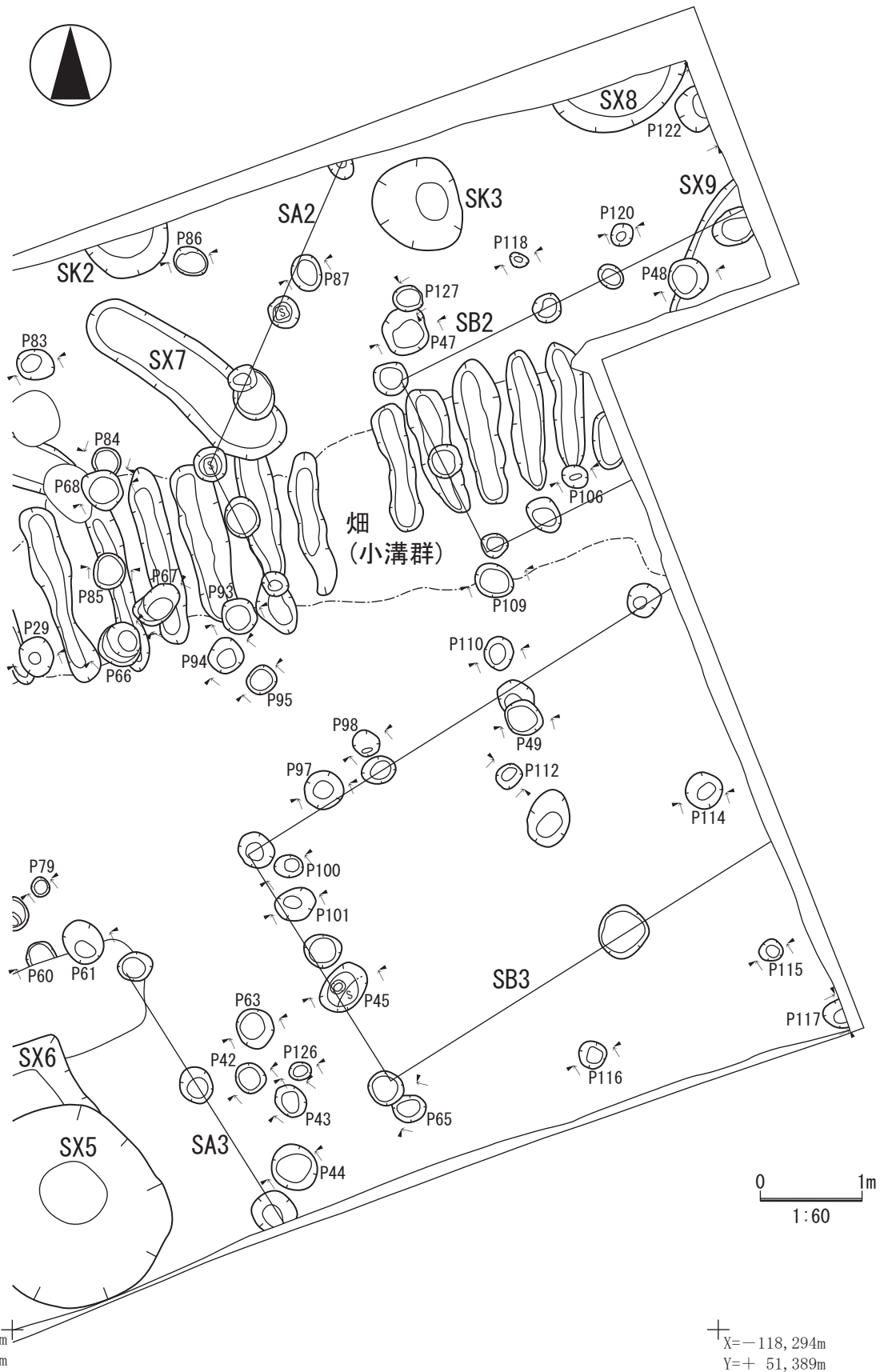
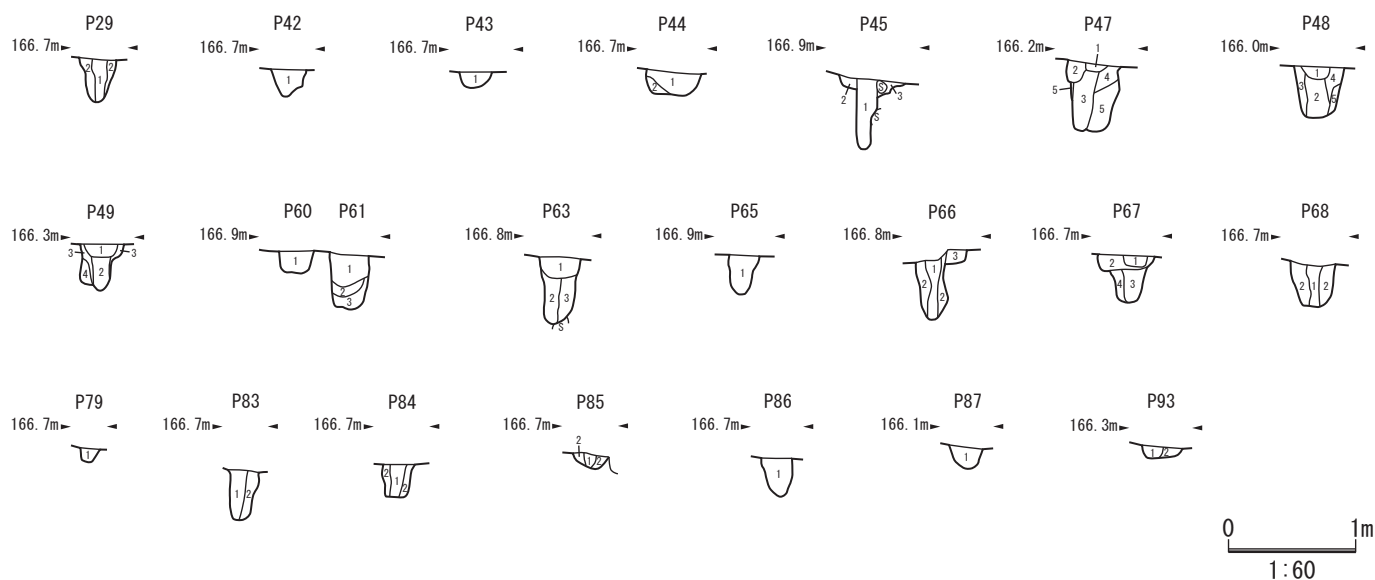


図16 柱穴群 (東半部) 平面図

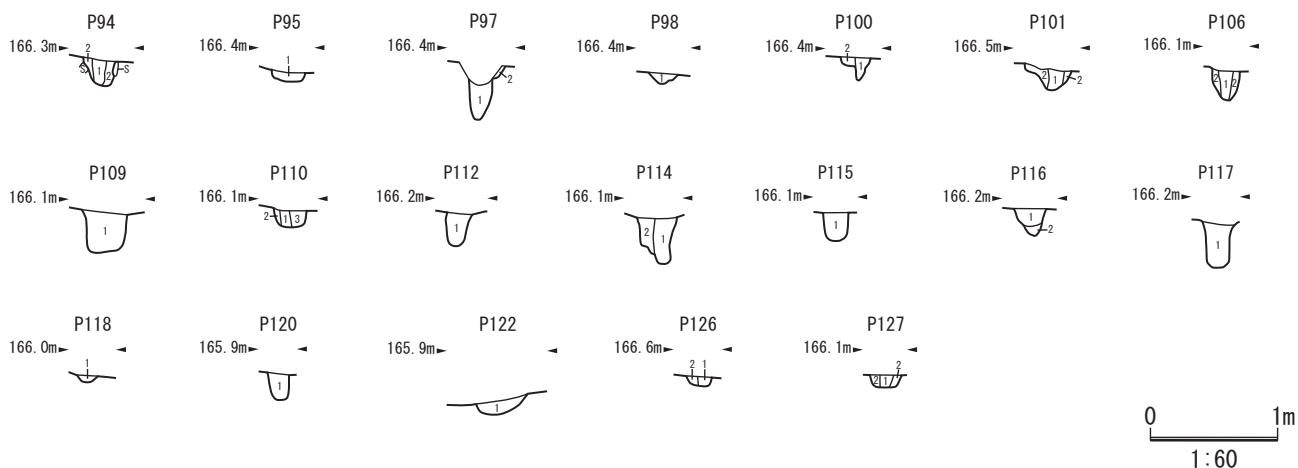
※ (断面図始点) ・ (断面図終点) に取り付く ↑ (矢印) は、その柄から先を見た断面図を作成していることを示す。



土層注記

- P29 1 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
2 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P42 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P43 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P44 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロック、炭化物粒を微量含む。
2 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを微量含む。
- P45 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土。
- P47 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量、炭化物粒を極微量含む。柱抜取穴上層。
2 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱抜取穴下層。
3 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
4 10YR6/6明黄褐色シルト。粘性なし。しまりあり。黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを中量含む。掘方埋土上層。
5 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土下層。
- P48 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱抜取穴。
2 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山中ブロックを中量含む。柱痕跡。
3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土上層。
4 10YR2/2黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土中層。
5 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを壁際に中量含む。掘方埋土下層。
- P49 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱抜取穴。
2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
3 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土上層。
4 10YR5/6黄褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。黒褐色(10YR2/3)シルト小ブロックを中量含む。掘方埋土下層。
- P60 1 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。下半部に暗褐色(10YR3/3)シルト小ブロックを微量含む。
- P61 1 10YR3/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
2 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。
3 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P63 1 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱抜取穴。
2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
3 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P65 1 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P66 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小・中ブロックを多量含む。掘方埋土。
3 10YR3/1黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。掘方埋土あるいは本遺構よりも古いビット埋土か。
- P67 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱抜取穴上層。
2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱抜取穴下層。
3 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
4 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土。
- P68 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。下位に地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P79 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P83 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山大ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P84 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。中位に地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P85 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P86 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P87 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P93 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
2 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを中量含む。掘方埋土。

図17 柱穴群(東半部)断面(1)



土層注記

- P94 1 10YR3/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。柱痕跡。
 2 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。掘方埋土。
- P95 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山小ブロックを極微量含む。
- P97 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P98 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山小ブロック、炭化物粒を極微量含む。
- P100 1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P101 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。掘方埋土。
- P106 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりなし。地山小ブロックを極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを極微量含む。掘方埋土。
- P109 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを多量含む。
- P110 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。下半部に地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
 2 10YR5/6黄褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを微量含む。掘方埋土。
 3 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。下半部に地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P112 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P114 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P115 1 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P116 1 10YR2/1黒色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。
- P117 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。柱痕跡。
- P118 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。
- P120 1 10YR3/1黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりややあり。下半部に地山小ブロックを多量含む。柱痕跡。
- P122 1 10YR2/3黒褐色粘土質シルト。粘性あり。しまりあり。地山小ブロックを極微量含む。
- P126 1 10YR3/1黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロック、炭化物粒を極微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/2黒褐色粘土質シルト。粘性ややあり。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。
- P127 1 10YR2/2黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを微量含む。柱痕跡。
 2 10YR2/3黒褐色シルト。粘性なし。しまりややあり。地山小ブロックを中量含む。掘方埋土。

図18 柱穴群(東半部)断面(2)

② 遺物

調査の結果、遺構から陶器1点、磁器1点、金属製品3点、石製品4点、被熱した礫1点、凝土1点、人骨1点、木製品4点の小計16点、基本層Ⅲb層（畑耕作土旧期）から陶器21点、磁器11点、窯道具2点、金属製品3点の小計37点、基本層Ⅲa層（畑耕作土新期）から陶器12点、磁器11点、窯道具1点の小計24点、基本層Ⅱ層（整地のための盛土）から陶器26点、磁器28点、窯道具8点、窯体1点、金属製品1点、石製品3点の小計67点、基本層Ⅰ層（表土）から陶器2点、磁器1点、窯道具1点、金属製品1点の小計5点、攪乱から陶器18点、磁器10点、瓦器7点、窯道具3点、窯体1点、鍛冶関連遺物1点、金属製品2点の小計42点、合計191点が出土した。

出土遺物は全点、出土遺物観察表（表6）および写真1～4、写真図版10～13に掲載した。また、遺構から出土したもののうち陶磁器（2点）については、図化（図19-1・2）して示した。

図19-1、写真1・2は、SX2 1層から出土した染付磁器碗の体部～底部片。19世紀代の在地系産とみられ、見込に「寿」がある。高台部径4.2cm、残存高3.6cmである。図19-2、写真3・4は、P20埋土から出土した染付陶器小壺の口縁部～体部片。18世紀代の瀬戸産で、残存高2.3cmである。

補足：近世末の在地窯（上折壁窯）が存在していた可能性について

今回の調査で出土した遺物で注目されるのは、遺構には伴わないが、19世紀代とみられる在地窯の焼成途上（半製品）であると考えられる陶器、窯道具、窯体がまとまって確認できた（出土遺物の総点数191点のうち、52点〔陶器35点、窯道具15点、窯体2点〕、全体の約27%を占める）ことである（表6出土遺物観察表参照）。

このことは、かつて近傍に斜面地形（あるいは上折壁城の土塁など）を利用して築かれていた上折壁窯ともいふべき在地窯が存在しており、それらが削り取られ、この地点に移動されたことを示していると考えられる。

陶器の器種は、皿、鉢、片口鉢、播鉢、小甕、甕で、いわゆる日常雑器である。皿の底面には布目圧痕が残り、鉢は口クロから回転糸切りによって切り離される。また、播鉢の外面部部下半および底面にはケズリ調整、甕の外表面はカキメ調整が施される。

窯道具には、いわゆる「桔梗台」、仙台堤焼でいう「しんこ」、又状の「トチン」、定形ではない焼台（輪状焼台を含むか）がある。「桔梗台」には、大型で上部中央に孔があるもの、大型で上部中央に孔がないもの、小型で上部中央に孔があるもの、小型で上部中央に孔がないもの、の4タイプがみとめられる。定形ではない焼台には、成形の際のユビナデ調整痕がある。輪状焼台の可能性のあるものの1点には、焼成した際の製品の圧痕が残る。

なお、曾慶村（現一関市大東町）では、19世紀代に在地型窯業生産（曾慶焼）が行われていることを付記しておく。

（山川）

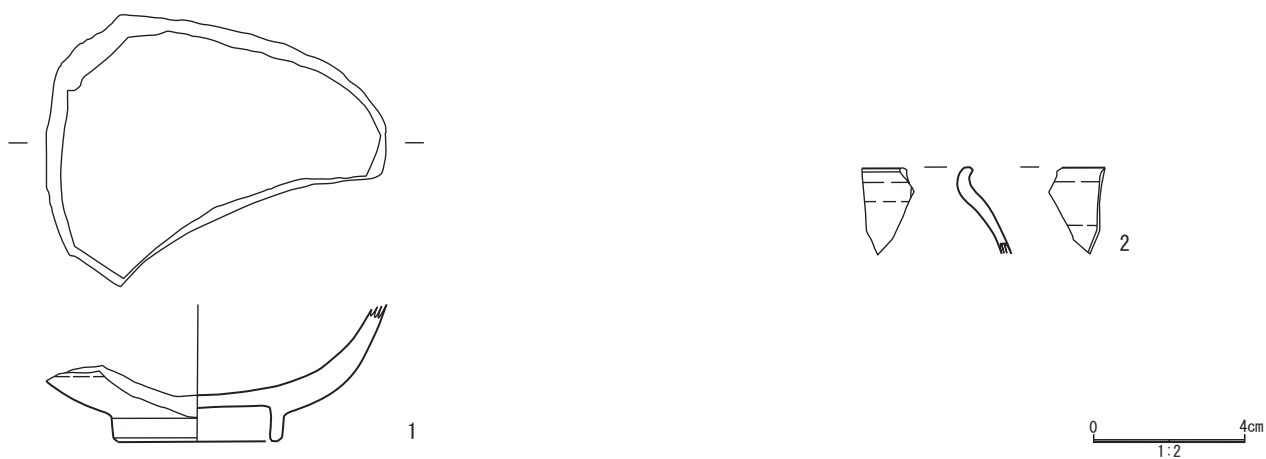


图19 遺構内出土遺物（陶磁器）



写真1 遺物 No.1 外面



写真2 遺物 No.1 内面

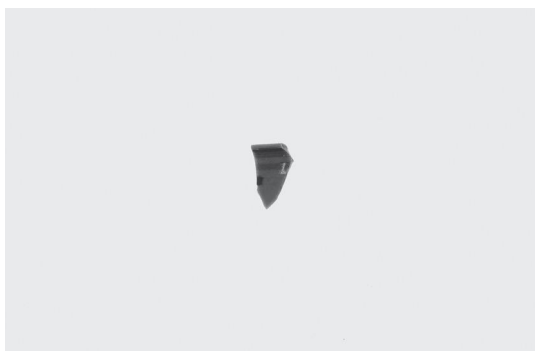


写真3 遺物 No.2 外面

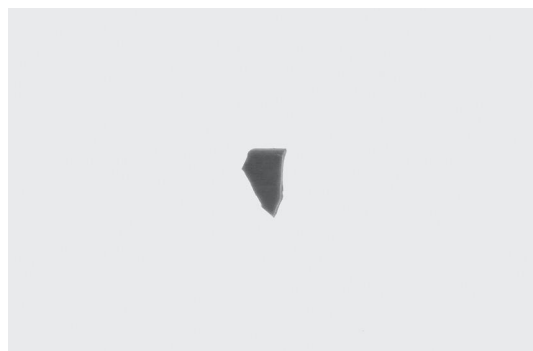


写真4 遺物 No.2 内面

4 上折壁城遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

株式会社加速器分析研究所

1 測定対象試料

上折壁城遺跡は、岩手県一関市室根町矢越字千刈田51（北緯38° 55′ 59″、東経141° 25′ 33″）に所在し、丘陵の麓に立地する。測定対象試料は、柱穴の埋土中に残存していた柱材2点である（表3）。なお、同一試料の樹種同定も実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

2 測定の意義

柱材の年代を確認する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表3）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表3に、補正していない値を参考値として表4に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表3に、補正していない値を参考値として表4に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.3較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表4に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表3、4に示す。

試料の¹⁴C年代は、S-1が $220 \pm 20\text{yrBP}$ 、S-2が $250 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代(1σ)は、S-1が1652 ~ 1798cal ADの間に2つの範囲と1945cal AD以降、S-2が1644 ~ 1792cal ADの間に2つの範囲で示される。なお、これらの試料の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する(表4下の警告参照)。

試料の炭素含有率は50%を超える適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表3 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-191451	S-1	P20 2層(柱痕跡)	炭化材(柱材)	AAA	-27.95 ± 0.25	220 ± 20	97.33 ± 0.28
IAAA-191452	S-2	P53 2層(柱痕跡)	炭化材(柱材)	AAA	-27.36 ± 0.23	250 ± 20	96.95 ± 0.27

[IAA登録番号: #9923]

表4 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-191451	270 ± 20	96.74 ± 0.27	217 ± 22	1652calAD - 1669calAD (26.9%)* 1781calAD - 1798calAD (32.0%)* 1945calAD - ... (9.3%)*	1646calAD - 1681calAD (37.5%)* 1739calAD - 1742calAD (0.6%)* 1762calAD - 1802calAD (43.7%)* 1937calAD - ... (13.6%)*
IAAA-191452	290 ± 20	96.48 ± 0.26	248 ± 22	1644calAD - 1665calAD (60.4%)* 1787calAD - 1792calAD (7.8%)*	1529calAD - 1542calAD (2.3%)* 1634calAD - 1670calAD (71.6%)* 1780calAD - 1800calAD (21.6%)*

[参考値]

* Warning! Date may extend out of range

(この警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

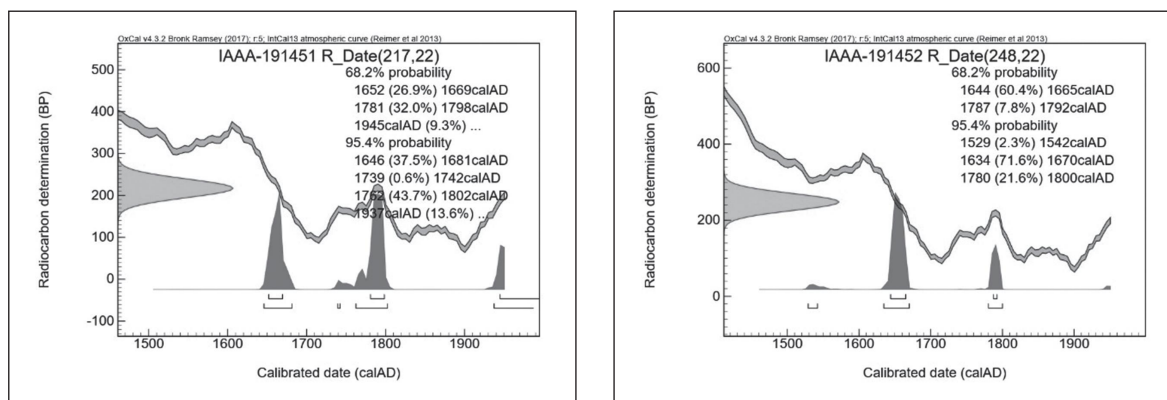


図20 暦年較正年代グラフ (参考)

5 上折壁城遺跡から出土した木材の樹種

株式会社加速器分析研究所

1 試料

一関市室根町矢越字千刈田の上折壁城遺跡の柱穴P20およびP53から出土した柱材とみられる木材の樹種同定を行った。なお、同一試料の放射性炭素年代測定も実施されており、近世から近代頃の年代値が示されている（別稿年代測定報告参照）。

2 分析方法

試料からステンレス剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を取り、封入剤ガムクロールでプレパラートを作成して現生標本の形態に基づき生物顕微鏡で観察した（図版1）。

3 結果

結果を表5に示す。2試料ともブナ科のクリに同定された。以下に同定の根拠となる形態記載を行う。クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

出土材は年輪はじめにやや大きい道管が数列配列し徐々に径を減じて波状にやや角ばった小さい管孔が配列する環孔材で、放射細胞は単列で同性である。

表5 上折壁城遺跡出土柱材の樹種

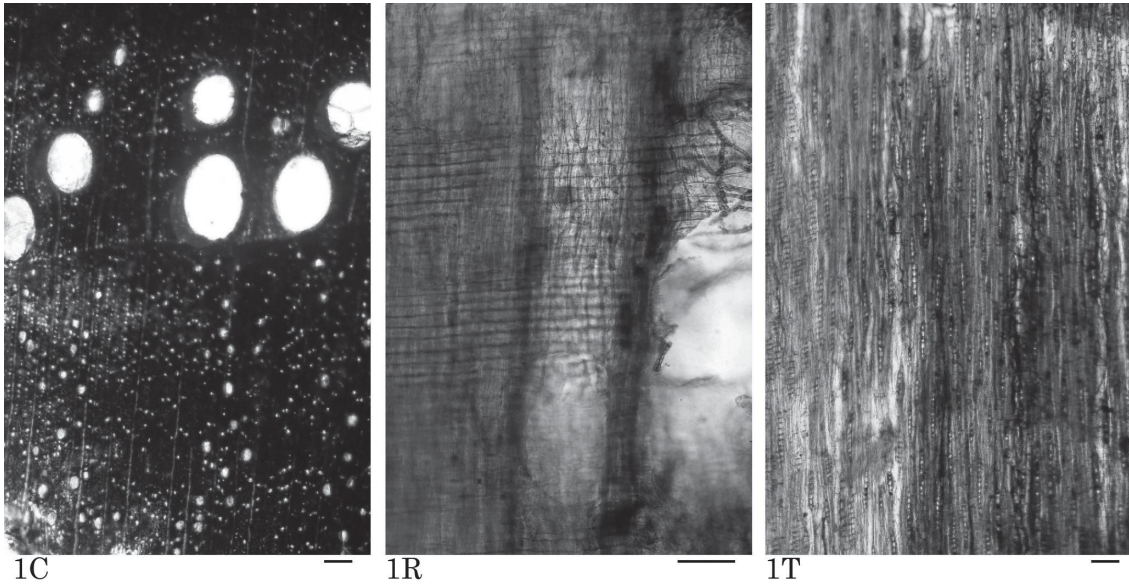
試料番号	遺構	樹種
S-1	P20	クリ
S-2	P53	クリ

4 考察

クリは丘陵や山地に生育する落葉高木であるが、古く縄文時代から栽培されていたとされ、広く分布している。本遺跡で出土した柱材は、年代測定の結果近世から近代頃と考えられた。クリ材は建築土木材として特に東北地方では優先的に利用されてきた樹種で、「江戸時代初期においてもクリの優位性は変わらない。」（荒井2012）とされ、建築部材の41%を占めている。本遺跡でもその傾向が強かったと言える。

文献

荒井格. 2012. V 遺跡出土木製品の種類と地域性12章東北—青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県・福島県—. 木の考古学 出土木製品用材データベース. 伊東隆夫・山田昌久編. 海青社. 147-156.
伊東隆夫. 1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料 第31号別刷. 京都大学木質科学研究所.



図版1 上折壁城遺跡出土木材の顕微鏡写真

1. クリ (S-1 P20) C:横断面、R:放射断面、T:接線断面、スケールは0.1mm

6 まとめ

本調査では、掘立柱建物、柱列、溝、井戸、土坑、畑（小溝群）などからなる屋敷を確認した。また、遺構内外から中世末期（16世紀中葉）～明治期の遺物が出土している。

屋敷の存続期間もこの年代幅に収まるものとみられるが、遺物が出土した遺構は極めて少なく、その位置づけは難しい。

ここでは、以下の大別3時期、細別4時期の区分と遺構変遷を推定しておく。

- 1 期：中世城館としての機能（16世紀中葉～17世紀初頭か）
S X 1 溝、S D 2 溝、S X 7 溝、S K 2 土坑、S X 8・9 土坑
- 2 期：近世屋敷の成立と展開（17世紀初頭～19世紀代か）
この屋敷は安永4年（1775）に書かれた上折壁村の「風土記御用書出」に記載のある「一 皂屋敷 貳軒」のうちの1軒にあたる可能性がある。
- 2 A 期：（17世紀初頭～18世紀代か）
S B 2・3 掘立柱建物、S A 1～4 柱列、S X 6 井戸
- 2 B 期：（18～19世紀代か）
S B 1 掘立柱建物、S X 5 井戸
- 3 期：屋敷の衰退と近傍に存在した在地窯の操業・廃絶、畑地としての耕作（19世紀代か）
S D 1 溝、S K 3 土坑、S X 2・4 土坑、畑（小溝群）

（山川）

引用参考文献（50音順、年代順）

- 岩手県教育委員会 1986『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集。
岩手県教育委員会 2019『岩手県遺跡情報検索システム（平成30年度データDVD）』。
大島英介監修 2004『図説 胆江・両磐の歴史』郷土出版社。
公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018『八幡沖遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第677集。
紫桃正隆 1972『史料 仙台領内古城・館』第一巻 岩手県南部（旧葛西領北部）宝文堂。
竹内誠・御子柴（氏家）真澄 2002『千厩地域の地質』地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）
独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター。
羽柴直人 2012「陸前高田市矢作町の近世窯業遺跡」『岩手考古学』第23号 岩手考古学会。
室根村史編纂委員会編 2004『室根村史』上巻・下巻 室根村。
室根村教育委員会 2005『浜横沢城跡発掘調査概報』。

表6 出土遺物観察表-1

No.	遺構・層位	種類	器種	部位	年代	備考	図版
1	SX2 1層	磁器	碗	体～底	19Cか	在地系産 染付 見込に「寿」	図16-1 写真1・2
2	P20 埋土	陶器	小壺	口縁～体	18C代	瀬戸産 染付	図16-2 写真3・4
3	Ⅲ b層	磁器	碗	体～底	19C前半	瀬戸産 染付	写真10-1-3
4	Ⅲ b層	陶器	壺	体	18C～19C	大堀相馬産	写真10-1-4
5	Ⅲ b層	磁器	端反碗	口縁	19C中葉	瀬戸産 染付	写真10-1-5
6	Ⅲ b層	陶器	丸壺	体	18C代	瀬戸産 錆釉	写真10-1-6
7	Ⅲ b層	陶器	壺	口縁	18C～19C	大堀相馬産	写真10-1-7
8	Ⅲ b層	陶器	鉢	底	19Cか	在地産	写真10-1-8
9	Ⅲ b層	磁器	花瓶	把手	19Cか	産地不明	写真10-1-9
10	Ⅲ b層	磁器	碗	体	17C末～18C末	肥前産 染付	写真10-1-10
11	Ⅲ b層	陶器	鉢	口縁	17C前半	瀬戸産 黄瀬戸 内面に波状文	写真10-1-11
12	Ⅲ b層	磁器	碗	体	17C末～18C末	肥前産 染付	写真10-2-12
13	Ⅲ b層	陶器	播鉢	体	19Cか	在地産 鉄釉	写真10-2-13
14	Ⅲ b層	陶器	焙烙	把手	19Cか	在地産 無釉 小孔あり	写真10-2-14
15	Ⅲ b層	陶器	杓形壺	底	16C末～17C初	美濃産 (志野)	写真10-2-15
16	Ⅲ b層	磁器	小坏	体～底	19C中葉	産地不明 外面に詩文 焼き継ぎあり	写真10-2-16
17	Ⅲ b層	陶器	壺	口縁～体	18C～19C	大堀相馬産	写真10-2-17
18	Ⅲ b層	磁器	猪口	口縁～体	17C末～18C末	肥前産 染付	写真10-2-18
19	Ⅲ b層	陶器	鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写真10-2-19
20	Ⅲ b層	磁器	皿	口縁～底	17C前半	肥前産 染付 いわゆる伊万里	写真10-2-20
21	Ⅲ b層	磁器	皿	口縁～底	16C代	中国産 (明) 染付	写真10-3-21
22	Ⅲ b層	陶器	焙烙	口縁	19Cか	在地産 透明釉	写真10-3-22
23	Ⅲ b層	陶器	土瓶	体	18C～19C	大堀相馬産	写真10-3-23
24	Ⅲ b層	陶器	鉢か	体	19Cか	在地産	写真10-3-24
25	Ⅲ b層	磁器	爛徳利	体	19C後半	平清水産か	写真10-3-25
26	Ⅲ b層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明	写真10-3-26
27	Ⅲ b層	陶器	器種不明	口縁	不明	産地不明	写真10-3-27
28	Ⅲ b層	陶器	小壺	体	19Cか	在地産 無釉	写真10-3-28
29	Ⅲ b層	陶器	鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写真10-3-29
30	Ⅲ b層	陶器	播鉢	体	19Cか	在地産 鉄釉	写真10-3-30
31	Ⅲ b層	陶器	壺	体	18C～19C	大堀相馬産	写真10-4-31
32	Ⅲ b層	陶器	壺	口縁～体	18C～19C	大堀相馬産	写真10-4-32
33	Ⅲ b層	陶器	壺	底	18C～19C	大堀相馬産	写真10-4-33
34	Ⅲ b層	陶器	丸皿	底	16C中葉	瀬戸産 見込に菊花スタンプ	写真10-4-34
35	Ⅲ a層	陶器	播鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写真10-4-35
36	Ⅲ a層	陶器	焙烙	把手	19Cか	在地産 無釉	写真10-4-36
37	Ⅲ a層	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明	写真10-5-37
38	Ⅲ a層	陶器	鈴	—	19Cか	在地産 無釉 型づくり	写真10-5-38
39	Ⅲ a層	陶器	播鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写真10-5-39
40	Ⅲ a層	陶器	片口鉢か	底	19Cか	在地産 半製品	写真10-5-40
41	Ⅲ a層	磁器	皿	口縁～底	17C前半	肥前産 染付	写真10-5-41
42	Ⅲ a層	陶器	壺	体～底	18C～19C	大堀相馬産 外面底部下端～底部露胎	写真10-5-42
43	Ⅲ a層	磁器	皿	口縁	19Cか	産地不明 染付	写真10-5-43
44	Ⅲ a層	磁器	皿	口縁	17C末～18C末	肥前産 染付	写真10-5-44
45	Ⅲ a層	磁器	碗	口縁	17C末～18C末	肥前産 染付	写真10-5-45
46	Ⅲ a層	磁器	碗	体～底	19Cか	産地不明	写真10-5-46
47	Ⅲ a層	陶器	碗	口縁～体	19Cか	産地不明	写真10-6-47
48	Ⅲ a層	陶器	小壺	口縁～体	19Cか	在地産 灰釉	写真10-6-48
49	Ⅲ a層	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明	写真10-6-49
50	Ⅲ a層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写真10-6-50
51	Ⅲ a層	陶器	壺	体	19Cか	産地不明	写真10-6-51
52	Ⅲ a層	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明	写真10-6-52

※ 写図は写真図版の略

表6 出土遺物観察表-2

No.	遺構・層位	種類	器種	部位	年代	備考	図版
53	Ⅲ a層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明 漆継ぎあり	写図 10-6-53
54	Ⅲ a層	陶器	片口鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写図 10-6-54
55	Ⅲ a層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明 染付	写図 10-6-55
56	Ⅲ a層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明	写図 10-6-56
57	Ⅲ a層	陶器	小甕か	底	19Cか	在地産 無釉 半製品	写図 10-6-57
58	Ⅱ層	磁器	爛徳利	体～底	19C後半	平清水産か	写図 10-6-58
59	Ⅱ層	磁器	皿	体	18C代	瀬戸産 染付	写図 10-6-59
60	Ⅱ層	陶器	壺	口縁	18C～19C	大堀相馬産	写図 10-7-60
61	Ⅱ層	磁器	碗	口縁	19C前半	瀬戸産 染付	写図 10-7-61
62	Ⅱ層	陶器	壺	体	19Cか	産地不明	写図 10-7-62
63	Ⅱ層	磁器	丸碗	口縁	18C代	瀬戸産 染付	写図 10-7-63
64	Ⅱ層	陶器	小甕	体	19Cか	在地産 鉄釉	写図 10-7-64
65	Ⅱ層	磁器	碗	底	17C末～18C末	肥前産 染付	写図 10-7-65
66	Ⅱ層	陶器	小甕	体	19Cか	在地産 無釉 半製品	写図 10-7-66
67	Ⅱ層	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明	写図 10-7-67
68	Ⅱ層	磁器	皿	体	17C末～18C末	肥前産 染付	写図 10-7-68
69	Ⅱ層	陶器	片口鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写図 10-7-69
70	Ⅱ層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写図 10-7-70
71	Ⅱ層	磁器	皿	口縁	19Cか	産地不明 寿文皿	写図 10-7-71
72	Ⅱ層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写図 10-8-72
73	Ⅱ層	陶器	甕	体	19Cか	在地産 無釉 半製品 外面カキメ	写図 10-8-73
74	Ⅱ層	陶器	鉢	口縁～体	19Cか	在地産 半製品	写図 10-8-74
75	Ⅱ層	陶器	壺	口縁	18C～19C	大堀相馬産	写図 10-8-75
76	Ⅱ層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明	写図 10-8-76
77	Ⅱ層	磁器	皿	底	17C前半	肥前産 染付 いわゆる伊万里	写図 10-8-77
78	Ⅱ層	磁器	端反碗	口縁～体	19C前半	瀬戸産 染付	写図 10-8-78
79	Ⅱ層	磁器	皿	底	17C末～18C末	肥前産 染付	写図 10-8-79
80	Ⅱ層	陶器	鉢	底	19Cか	在地産 半製品	写図 10-8-80
81	Ⅱ層	陶器	皿	底	19Cか	在地産 無釉 半製品 底面布目圧痕	写図 11-1-81
82	Ⅱ層	陶器	小甕	口縁	19Cか	在地産 無釉 半製品	写図 11-1-82
83	Ⅱ層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明 染付	写図 11-1-83
84	Ⅱ層	陶器	鉢	口縁～体	19Cか	在地産 半製品	写図 11-1-84
85	Ⅱ層	陶器	播鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写図 11-1-85
86	Ⅱ層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写図 11-1-86
87	Ⅱ層	磁器	碗	口縁	19C中葉	瀬戸産 染付	写図 11-1-87
88	Ⅱ層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写図 11-1-88
89	Ⅱ層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写図 11-1-89
90	Ⅱ層	磁器	蕎麦猪口	口縁～体	17C末～18C末	肥前産 染付 湯呑の可能性もあり	写図 11-1-90
91	Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体	17C末～18C末	肥前産 染付	写図 11-1-91
92	Ⅱ層	磁器	碗	体	19Cか	産地不明 染付	写図 11-1-92
93	Ⅱ層	磁器	蕎麦猪口	口縁	17C末～18C末	肥前産 染付 湯呑の可能性もあり	写図 11-1-93
94	Ⅱ層	磁器	香炉	底	年代不明	肥前産 火鉢の可能性もあり 漆継ぎあり	写図 11-1-94
95	Ⅱ層	陶器	小壺	口縁～体	18C代	瀬戸産 染付	写図 11-1-95
96	Ⅱ層	陶器	碗	口縁	19C～20C	産地不明	写図 11-2-96
97	Ⅱ層	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明	写図 11-2-97
98	Ⅱ層	磁器	碗	体	17C末～18C末	肥前産 染付	写図 11-2-98
99	Ⅱ層	陶器	甕	口縁～体	19Cか	在地産 無釉 半製品	写図 11-2-99
100	Ⅱ層	陶器	甕	体	19Cか	在地産 無釉 半製品	写図 11-2-100
101	Ⅱ層	陶器	皿	体	18C～19C	大堀相馬産 灰釉と鉄釉のかけ分け	写図 11-2-101
102	Ⅱ層	陶器	香炉	底	18C～19C	大堀相馬産	写図 11-3-102
103	Ⅱ層	磁器	皿	口縁	17C末～18C末	肥前産 染付	写図 11-3-103
104	Ⅱ層	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写図 11-3-104
105	Ⅱ層	磁器	碗	口縁	19Cか	肥前産 染付	写図 11-3-105

※ 写図は写真図版の略

表6 出土遺物観察表-3

No.	遺構・層位	種類	器種	部位	年代	備考	図版
106	Ⅱ層	磁器	爛徳利	体～底	19C後半	平清水産か	写真 11-3-106
107	Ⅱ層	陶器	杵形埴	底	16C末～17C初	美濃産 (志野)	写真 11-3-107
108	Ⅱ層	磁器	皿	口縁	17C末～18C末	肥前産 染付	写真 11-3-108
109	Ⅱ層	磁器	碗	体	17C末～18C末	肥前産 染付	写真 11-3-109
110	Ⅱ層	磁器	碗皿類	口縁	16C代	中国産白磁	写真 11-3-110
111	Ⅱ層	磁器	碗	体	19Cか	肥前産 染付	写真 11-3-111
112	Ⅰ層	陶器	鉢	体～底	19Cか	在地産 半製品	写真 11-3-112
113	Ⅰ層	陶器	鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写真 11-3-113
114	Ⅰ層	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明	写真 11-4-114
115	攪乱	陶器	片口鉢	口縁～底	19Cか	在地産 半製品	写真 11-5-115
116	攪乱	陶器	鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写真 11-4-116
117	攪乱	陶器	埴	口縁	18C～19C	大堀相馬産	写真 11-4-117
118	攪乱	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写真 11-4-118
119	攪乱	陶器	甕	頸～体	19Cか	在地産 無釉 半製品	写真 11-4-119
120	攪乱	陶器	片口鉢	口縁	19Cか	在地産 半製品	写真 11-4-120
121	攪乱	磁器	爛徳利	底	19Cか	平清水産か	写真 11-4-121
122	攪乱	磁器	皿	口縁	19Cか	産地不明	写真 11-4-122
123	攪乱	磁器	碗	口縁	19C前半	瀬戸産	写真 11-4-123
124	攪乱	陶器	小甕	体	19Cか	在地産 無釉 半製品	写真 11-4-124
125	攪乱	陶器	皿	口縁～底	19Cか	在地産 無釉 半製品 底面布目圧痕	写真 11-4-125
126	攪乱	陶器	鉢	底	19Cか	在地産 半製品 底面回転糸切り	写真 11-4-126
127	攪乱	陶器	播鉢	体～底	19Cか	在地産 半製品 外面体部下半、底面ケズリ	写真 11-6-127
128	攪乱	陶器	埴	口縁	19Cか	産地不明	写真 11-6-128
129	攪乱	陶器	焙烙	底	19Cか	在地産 無釉 底面ケズリ	写真 11-6-129
130	攪乱	磁器	碗	口縁	19Cか	産地不明 寿文皿	写真 11-6-130
131	攪乱	磁器	爛徳利	体	19C後半	平清水産か	写真 11-6-131
132	攪乱	磁器	碗	体	19Cか	産地不明 染付	写真 11-6-132
133	攪乱	陶器	埴	体	19Cか	産地不明	写真 11-6-133
134	攪乱	磁器	碗	口縁	19C前半	瀬戸産 染付	写真 11-6-134
135	攪乱	陶器	土瓶	体	18C～19C	大堀相馬産	写真 11-6-135
136	攪乱	瓦器	鉢	底	19Cか	在地産 小孔あり	写真 11-6-136
137	攪乱	瓦器	鉢	底	19Cか	在地産 小孔あり	写真 11-6-137
138	攪乱	瓦器	鉢	底	19Cか	在地産 小孔あり	写真 11-6-138
139	攪乱	瓦器	鉢	体	19Cか	在地産	写真 11-6-139
140	攪乱	瓦器	鉢	体	19Cか	在地産	写真 11-7-140
141	攪乱	瓦器	鉢	底	19Cか	在地産 小孔あり	写真 11-7-141
142	攪乱	陶器	焙烙	底	19Cか	在地産 無釉 底面布目圧痕	写真 11-7-142
143	攪乱	陶器	鉢	体	19Cか	在地産 半製品	写真 11-7-143
144	攪乱	磁器	碗	体～底	17C末～18C末	肥前産 染付	写真 11-7-144
145	攪乱	陶器	急須 蓋	体	18C～19C	大堀相馬産	写真 11-7-145
146	攪乱	磁器	碗	体	19Cか	産地不明	写真 11-7-146
147	攪乱	瓦器	甕	口縁	19Cか	在地産	写真 11-7-147
148	攪乱	陶器	焙烙	体	19Cか	在地産 透明釉	写真 11-7-148
149	攪乱	磁器	碗	口縁	17C末～18C末	肥前産 染付	写真 11-7-149
150	Ⅲ b 層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 上部中央に孔あり 製品焼成の際に釉が付着 大型	写真 11-8-150
151	Ⅲ b 層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 上部中央に孔なし 大型	写真 11-8-151
152	Ⅲ a 層	陶器	窯道具	—	19Cか	焼台か	写真 11-8-152
153	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 小型	写真 12-1-153
154	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 小型	写真 12-1-154
155	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 上部中央に孔なし 大型	写真 12-1-155

※ 写真は写真図版の略

表6 出土遺物観察表-4

No.	遺構・層位	種類	器種	部位	年代	備考	図版
156	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 上部中央に孔あり 小型	写真 12-1-156
157	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 小型	写真 12-1-157
158	Ⅱ層	—	窯体	—	19Cか	10点あり 輪状焼台を含む可能性あり	写真 12-2-158
159	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	焼台か ユビナデ痕あり	写真 12-3-159
160	Ⅱ層	磁器	窯道具	—	19Cか	焼台か ユビナデ痕あり	写真 12-3-160
161	Ⅱ層	陶器	窯道具	—	19Cか	4点あり 輪状焼台か	写真 12-4-161
162	Ⅰ層	陶器	窯道具	—	19Cか	叉状 「トチン」か	写真 12-5-162
163	攪乱	陶器	窯道具	—	19Cか	仙台堤焼でいう「しんこ」	写真 12-5-163
164	攪乱	陶器	窯道具	—	19Cか	いわゆる「桔梗台」 上部中央に孔あり 大型	写真 12-5-164
165	攪乱	—	窯体	—	19Cか	11点あり 輪状焼台を含む可能性あり	写真 12-6-165
166	攪乱	陶器	窯道具	—	19Cか	3点あり 輪状焼台か 1点に焼成した際の製品の圧痕あり	写真 12-7-166
167	SX2 2層最下部	混凝土	—	—	不明	あるいは焼台等として使用か	写真 12-7-167
168	攪乱	鍛冶関連	鉄滓	—	不明	2点あり	写真 12-8-168
169	Pit.21 埋土最下部	金属製品	鉄釘	先端	不明	—	写真 13-1-169
170	SX4 埋土	金属製品	銭貨	—	19Cか	寛永通宝鉄四文銭（1860年初铸）か墓の副葬品	写真 13-1-170
171	SX4 埋土最下部	金属製品	不明	—	19Cか	青銅製 リング状 墓の副葬品	写真 13-1-171
172	Ⅲ b 層	金属製品	鉄製 刀子か	—	不明	—	写真 13-2-172
173	Ⅲ b 層	金属製品	鉄製 火打金	—	不明	—	写真 13-2-173
174	Ⅲ b 層	金属製品	鉄釘	先端	不明	—	写真 13-2-174
175	Ⅱ層	金属製品	不明	—	不明	鉄製 半円状	写真 13-3-175
176	Ⅰ層	金属製品	煙管	雁首、羅宇の一部	不明	雁首部：青銅製 羅宇部：木製	写真 13-3-176
177	攪乱	金属製品	鉄釘	—	不明	—	写真 13-3-177
178	攪乱	金属製品	鉄釘	—	不明	—	写真 13-3-178
179	SX2 2層最下部	石製品	砥石か	—	不明	泥岩	写真 13-4-179
180	SX2 2層最下部	礫	—	—	不明	花崗閃緑岩 被熱	写真 13-4-180
181	SX2 2層	石製品か	—	—	不明	花崗閃緑岩 被熱 炭化物（煤）付着	写真 13-4-181
182	Pit.88	石製品	礎板	—	不明	花崗閃緑岩	写真 13-5-182
183	Pit.90	石製品	礎板	—	不明	花崗閃緑岩	写真 13-5-183
184	Ⅱ層	石製品か	—	—	不明	花崗閃緑岩 柱状に加工か	写真 13-6-184
185	Ⅱ層	石製品	礎板か	—	不明	花崗閃緑岩 被熱 炭化物（煤）付着	写真 13-6-185
186	Ⅱ層	石製品	砥石	—	不明	泥岩	写真 13-6-186
187	SX4 埋土下部	人骨か	—	—	19Cか	墓に埋葬	写真 13-7-187
188	SX4 埋土最下部	木製品	板か	—	19Cか	墓から出土	写真 13-8-188
189	Pit.17 2層	木製品	柱材	—	不明	—	写真 13-8-189
190	Pit.20 2層	木製品	柱材	—	17C後半～ 18C末	放射性炭素年代測定（AMS法）の結果： 1652calAD - 1669calAD（26.9%）、 1781calAD - 1798calAD（32.0%） 樹種：クリ	写真 13-8-190
191	Pit.53 2層	木製品	柱材	—	17C中頃	放射性炭素年代測定（AMS法）の結果： 1644calAD - 1665calAD（60.4%） 樹種：クリ	写真 13-8-191

※ 写真は写真図版の略

写真図版 1



1. 調査区遠景（空中写真）



2. 調査区近景（空中写真）



3. 調査区北壁断面 1



4. 調査区北壁断面 2



5. II層上面確認



6. V層上面完掘全景



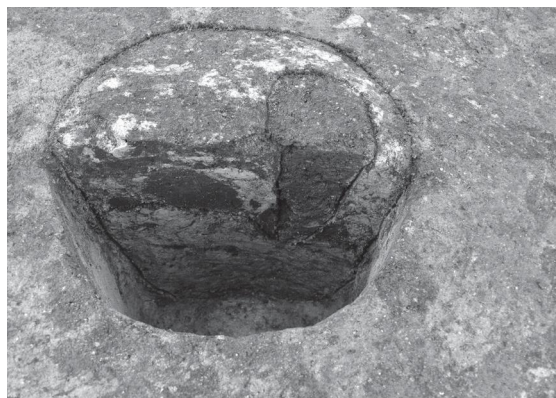
7. V層上面完掘（西半）



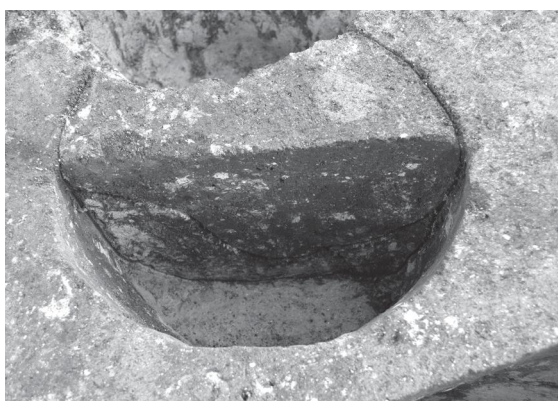
8. V層上面完掘（東半）



1. SB 1-P8断面



2. SB 1-P27断面



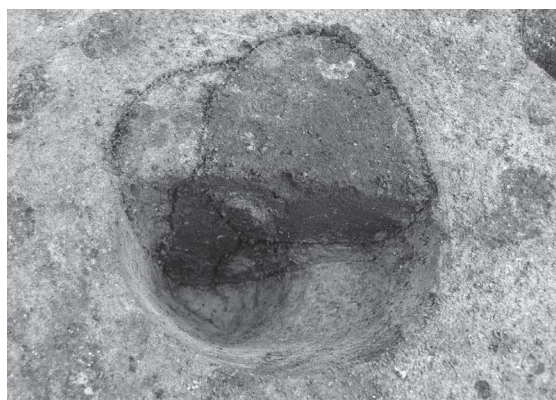
3. SB 1-P54断面



4. SB 1-P69断面



5. SB 1-P77断面



6. SB 1-P78断面



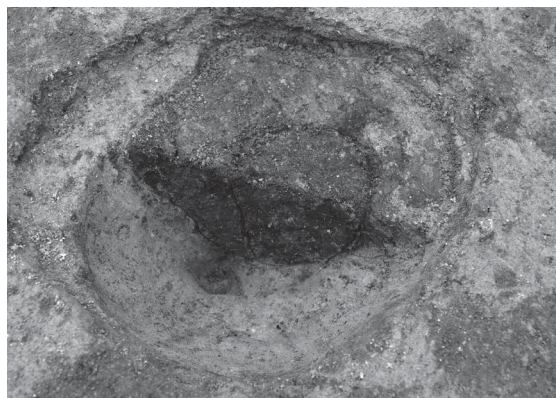
7. SB 1-P36断面



8. SB 1-P34断面



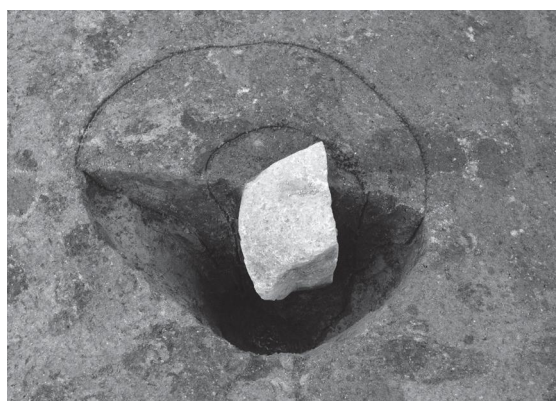
1. SB1-P12断面



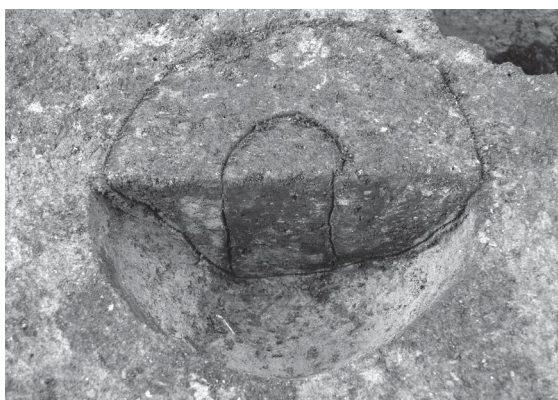
2. SB1-P10断面



3. SB1-P30断面



4. SB1-P33断面



5. SB2-P104断面



6. SB2-P119断面



7. SB2-P121断面



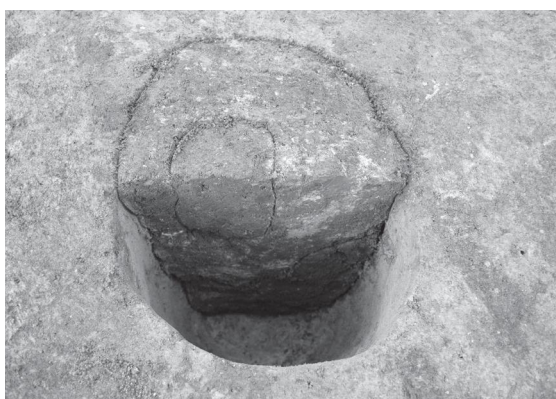
8. SB2-P123断面



1. SB2-P108断面



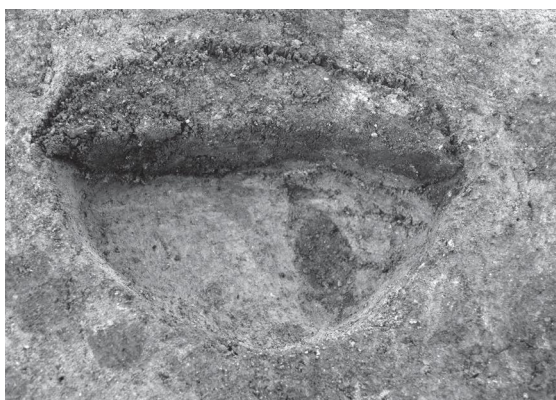
2. SB2-P107断面



3. SB2-P105断面



4. SB3-P96断面



5. SB3-P99断面



6. SB3-P111断面



7. SB3-P128断面



8. SB3-P50断面



1. SB3-P46断面



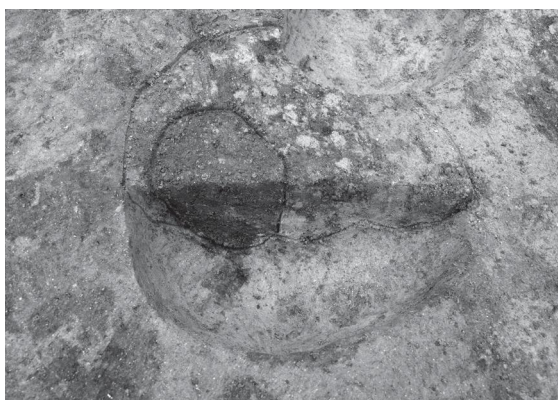
2. SB3-P102断面



3. SB3-P113断面



4. SA1-P1断面



5. SA1-P4断面



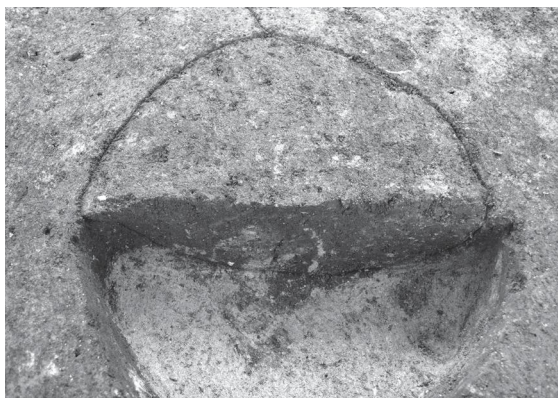
6. SA1-P5断面



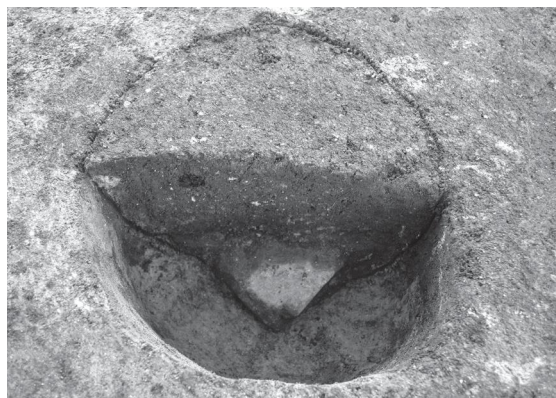
7. SA2-P103断面



8. SA2-P88断面



1. SA 2-P89断面



2. SA 2-P90断面



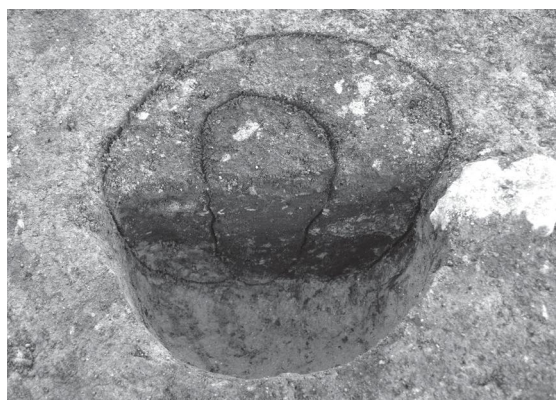
3. SA 2-P91断面



4. SA 2-P97断面



5. SA 3-P62断面



6. SA 3-P41断面



7. SA 3-P64断面



8. SA 4-P59断面兼完掘

写真図版7



1. SA 4-P39断面



2. SA 4-P40断面



3. SD 1 断面



4. SD 2 断面



5. SX 1 完掘



6. SX 1 Aライン断面



7. SX 1 Bライン断面



8. SX 7 断面



1. SX5断面



2. SX6完掘



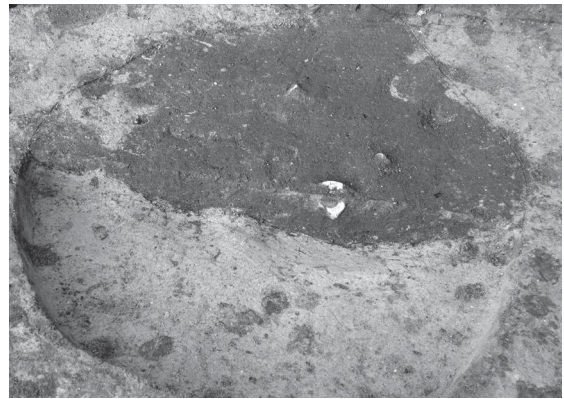
3. SX6断面



4. SK2確認



5. SK2断面兼完掘



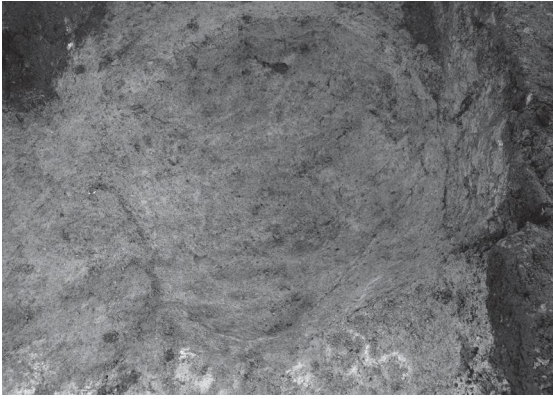
6. SK3断面



7. SX2確認



8. SX2断面



1. SX2完掘



2. SX4完掘



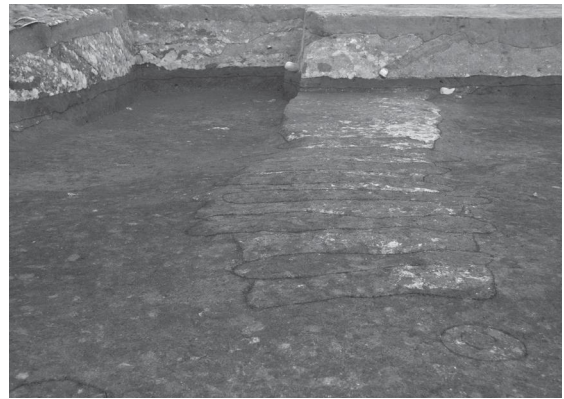
3. SX4断面



4. SX8断面兼完掘



5. SX9断面兼完掘



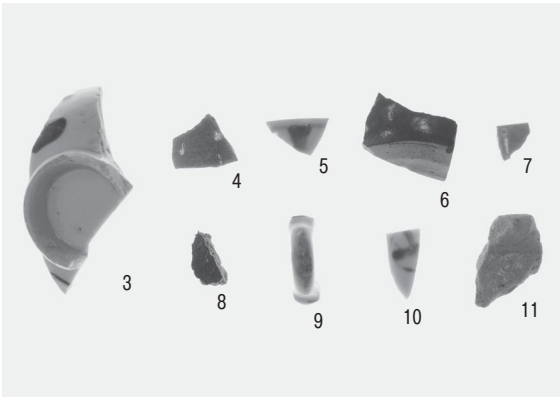
6. 畑（小溝群）確認



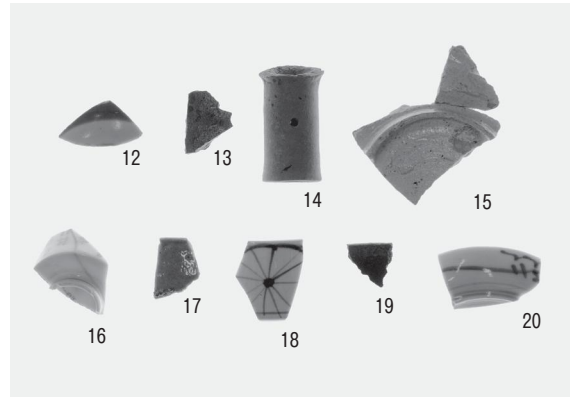
7. 畑（小溝群）断面



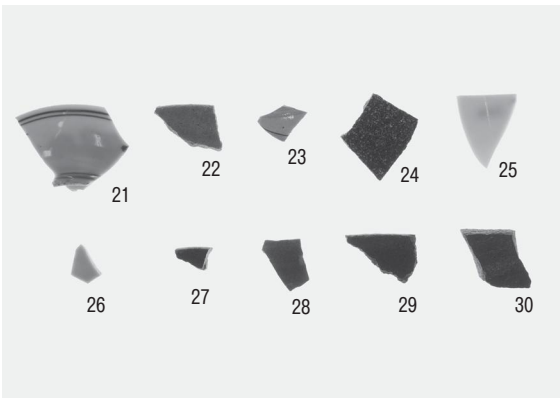
8. 畑（小溝群）完掘（西半）



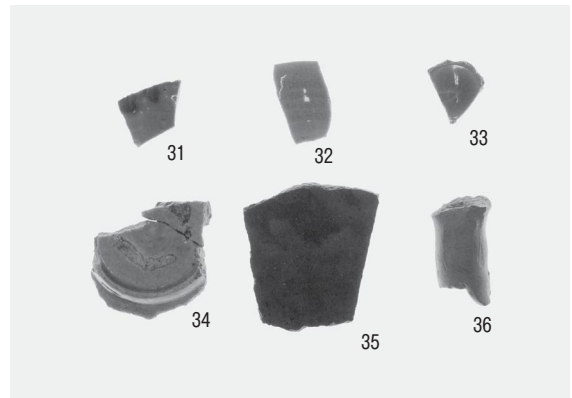
1. 出土遺物 (1)



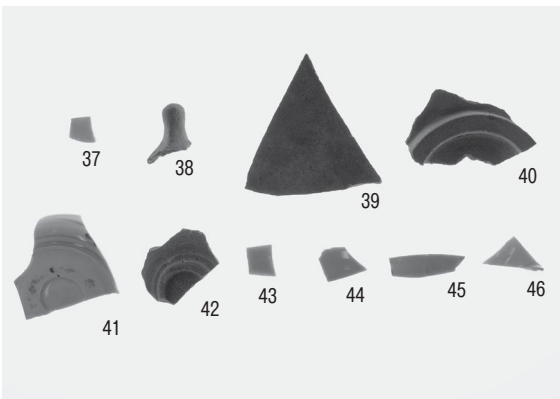
2. 出土遺物 (2)



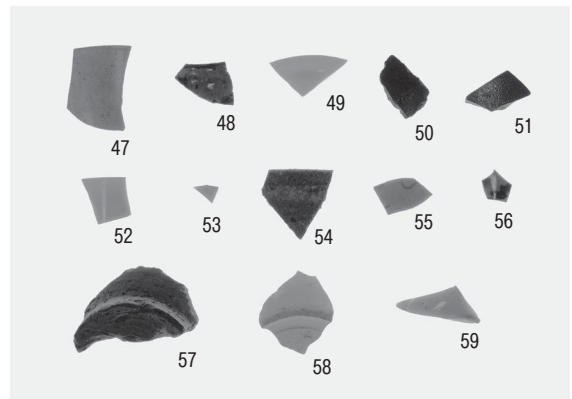
3. 出土遺物 (3)



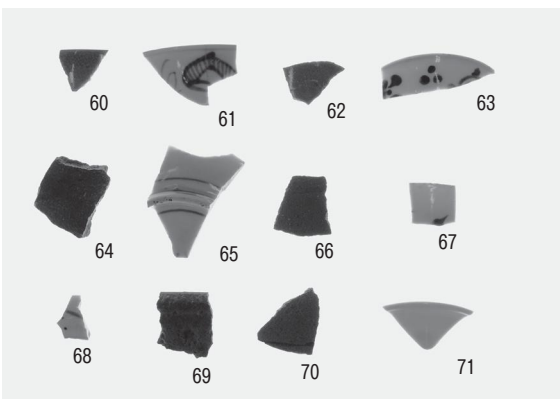
4. 出土遺物 (4)



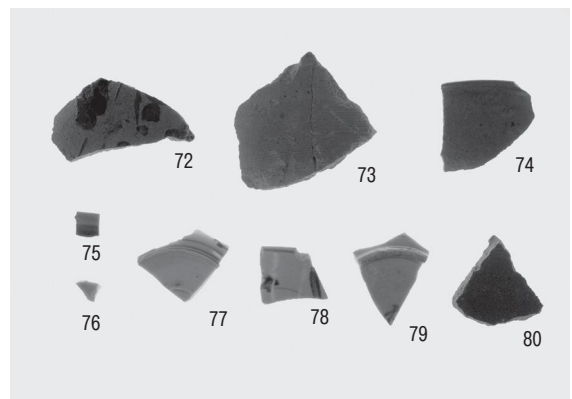
5. 出土遺物 (5)



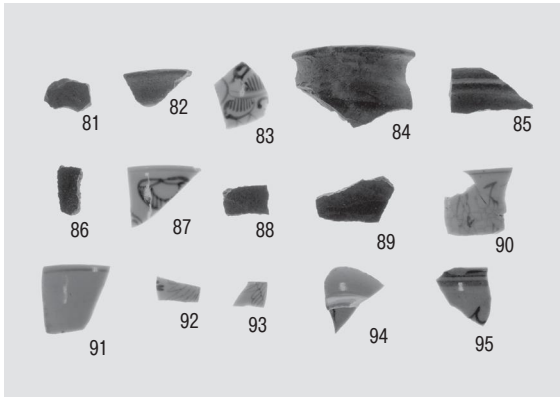
6. 出土遺物 (6)



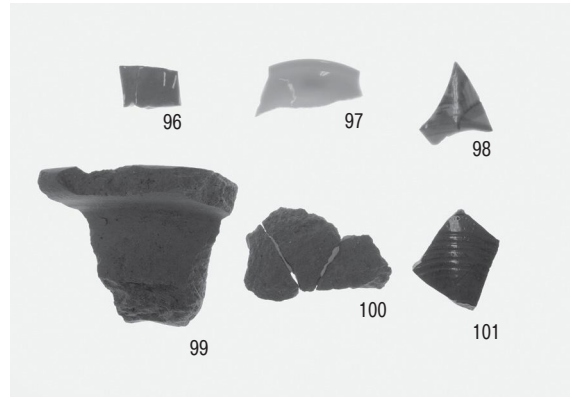
7. 出土遺物 (7)



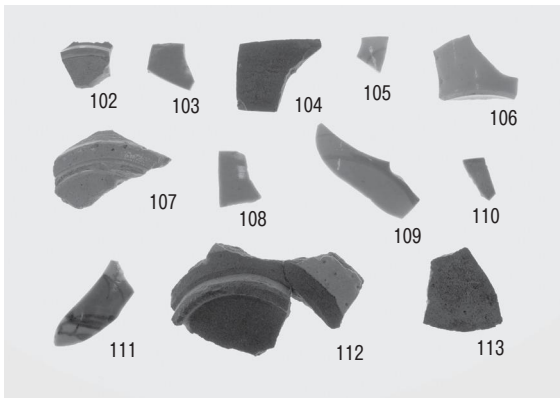
8. 出土遺物 (8)



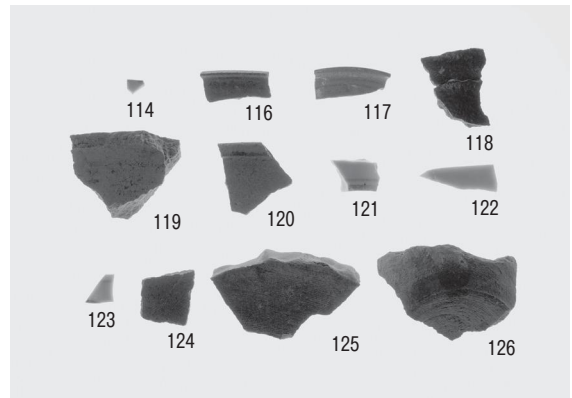
1. 出土遺物 (9)



2. 出土遺物 (10)



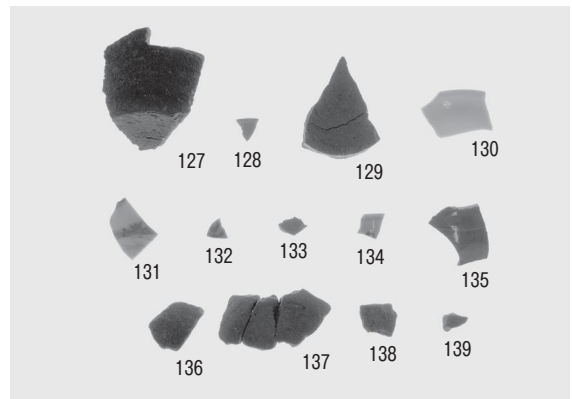
3. 出土遺物 (11)



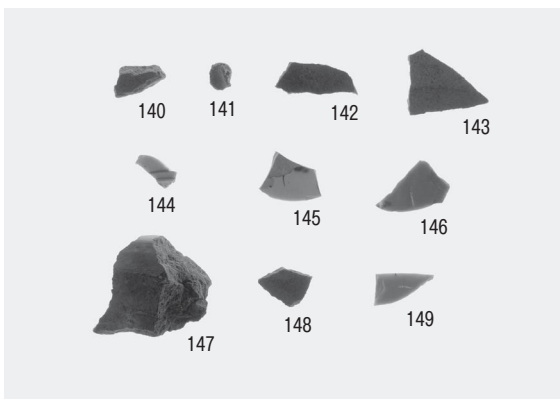
4. 出土遺物 (12)



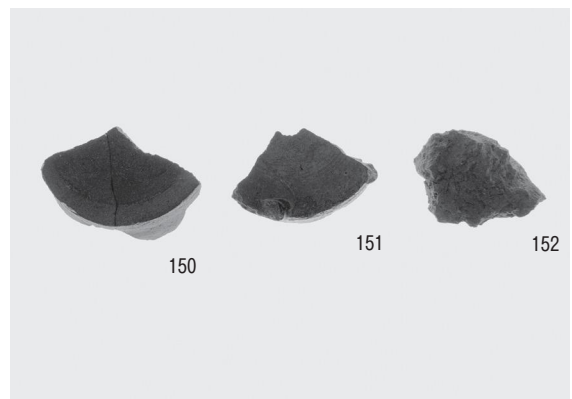
5. 出土遺物 (13)



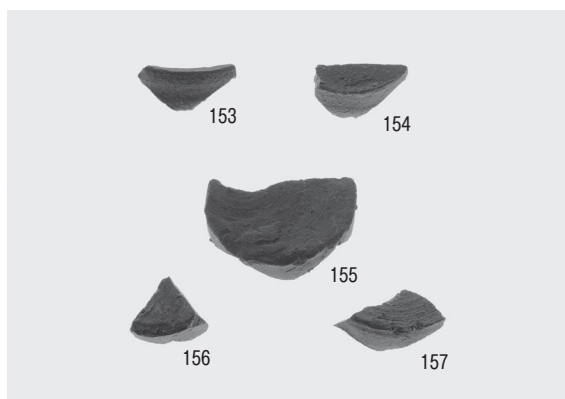
6. 出土遺物 (14)



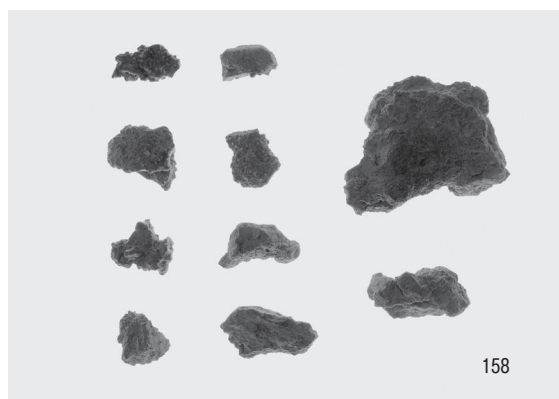
7. 出土遺物 (15)



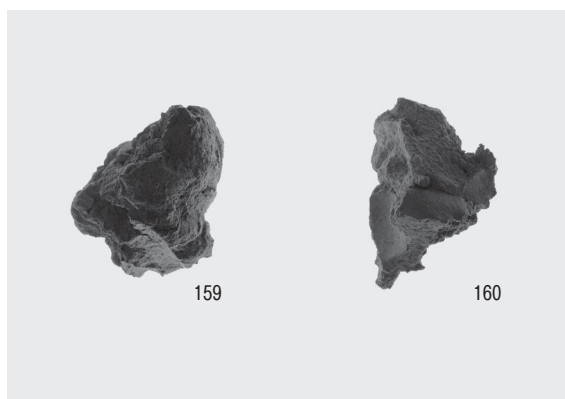
8. 出土遺物 (16)



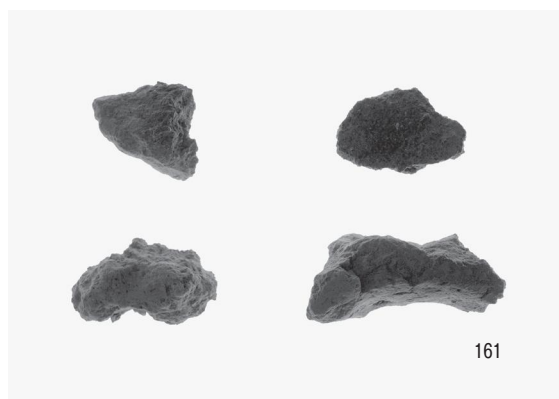
1. 出土遺物 (17)



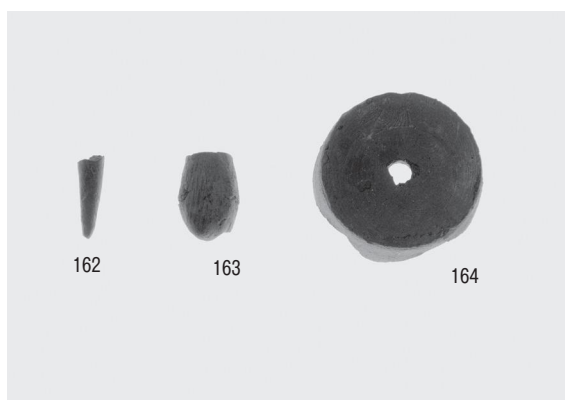
2. 出土遺物 (18)



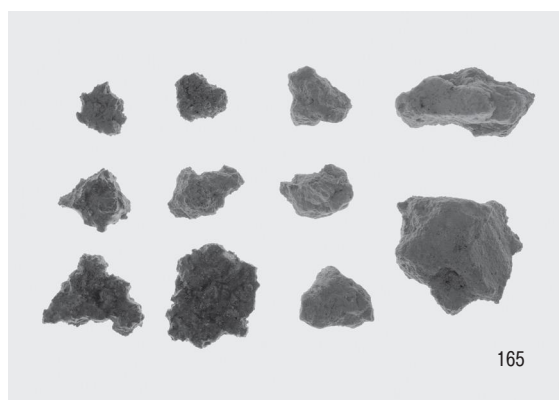
3. 出土遺物 (19)



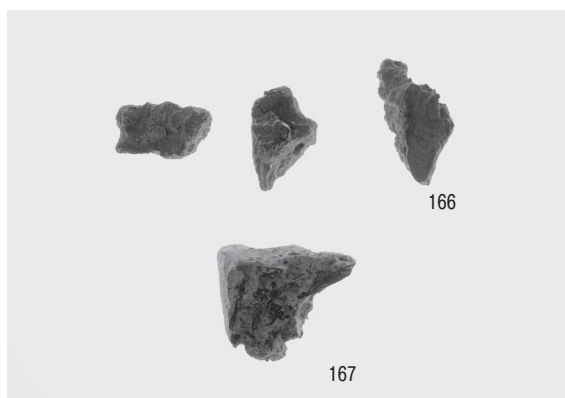
4. 出土遺物 (20)



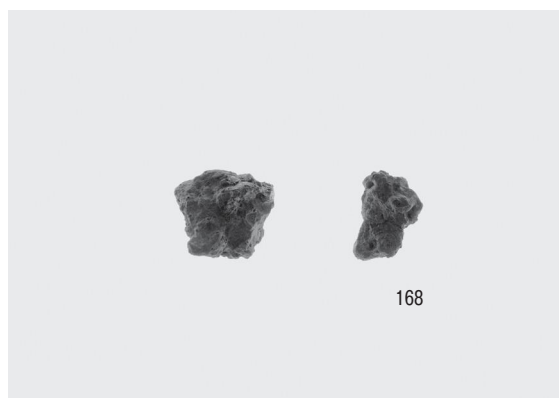
5. 出土遺物 (21)



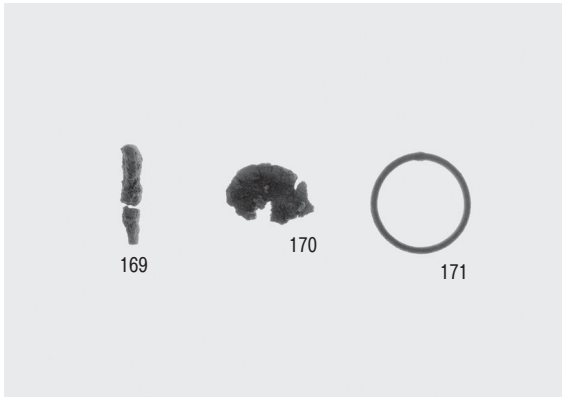
6. 出土遺物 (22)



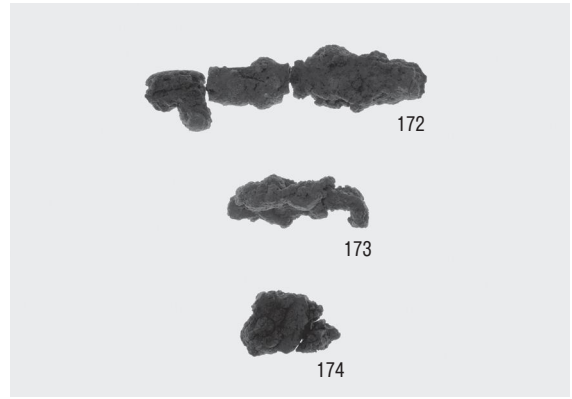
7. 出土遺物 (23)



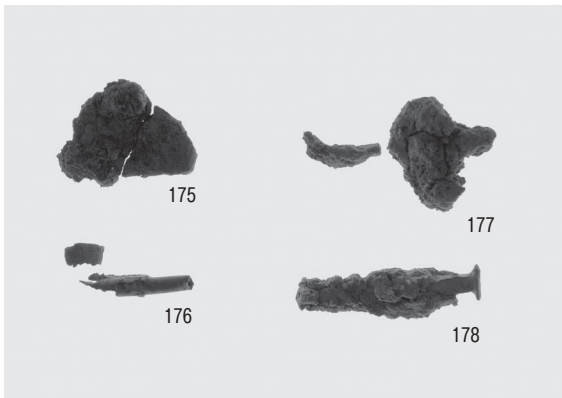
8. 出土遺物 (24)



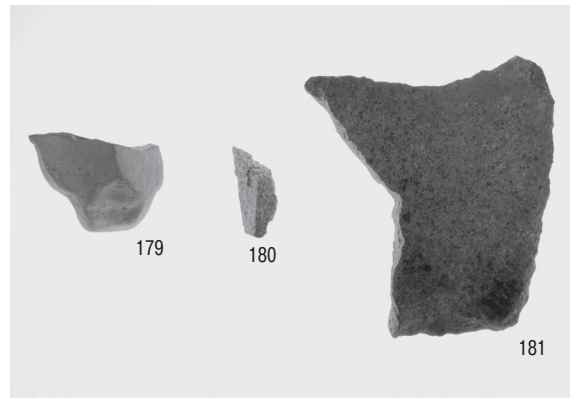
1. 出土遺物 (25)



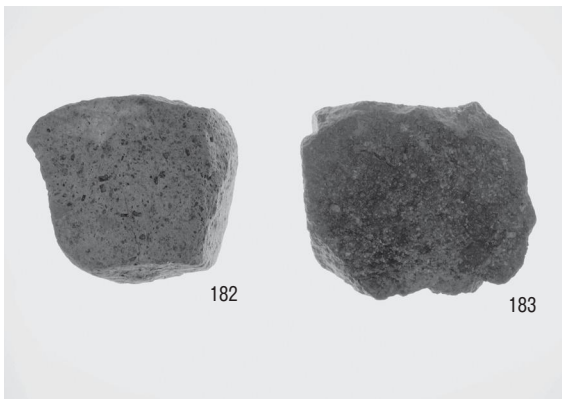
2. 出土遺物 (26)



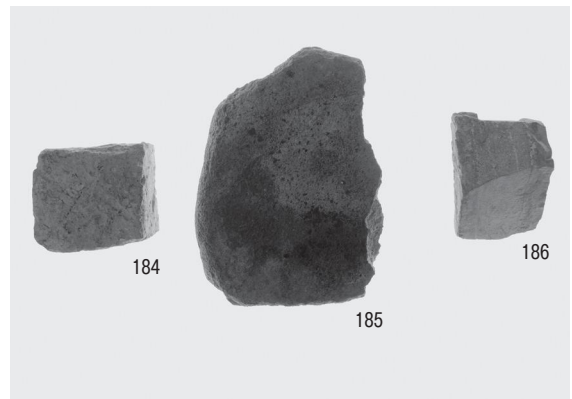
3. 出土遺物 (27)



4. 出土遺物 (28)



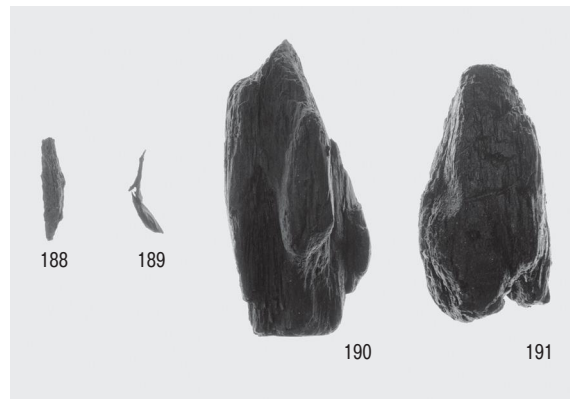
5. 出土遺物 (29)



6. 出土遺物 (30)



7. 出土遺物 (31)



8. 出土遺物 (32)

抄 録

ふりがな	かみおりかべじょういせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	上折壁城遺跡発掘調査報告書							
副書名	住宅新築工事に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第28集							
編著者名	菅原孝明・光井文行・山川純一							
編集機関	一関市教育委員会							
所在地	〒021-8503 一関市竹山町7-5 TEL0191-26-0820							
発行年月日	2020年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみおりかべじょういせき 上折壁城遺跡	いちのせきしむろねちょうやごし 一関市室根町矢越 あざせんがりだ 字千刈田51	03209	NF92- 1345	38°55'59"	141°25'33"	20190716 ～ 20190926 20191023 ～ 20191217	153㎡	記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上折壁城遺跡	城館跡	中世、近世	掘立柱建物、溝、井戸、 土坑	陶磁器、石製品、金属 製品				
要 約	<p>本調査区は、遺跡の南東端部にあたる。遺構内外から出土した遺物は、中世末期から明治期にかけてのものである。確認した掘立柱建物、溝、井戸などからなる屋敷も、この年代幅に収まるものとみられる。遺物が出土した遺構は極めて少なく、その位置づけは難しいが、大別3期（①中世城館としての機能 [16世紀中葉～17世紀初頭か]、②近世屋敷の成立と展開 [17世紀初頭～19世紀代か]、③屋敷の衰退と近傍に存在した在地窯の操業・廃絶、畑地としての耕作 [19世紀代か]）と推定される。</p>							

岩手県一関市埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

上折壁城遺跡発掘調査報告書

— 住宅新築工事に伴う発掘調査 —

発行年月日 令和2年3月23日

編集・発行 一関市教育委員会
〒021-8503 岩手県一関市竹山町7-5
電話 (0191) 26-0820

印刷 コンカツ印刷有限公司
〒021-0021 一関市中央町一丁目7-16
電話 (0191) 48-5963